ス

第四章　支　出

第十六條　年度開始ニ支出ニ充ツヘキ收入ナキ場合ニハ前年度ニ屬スル收支殘金ニシテ確實ト認ムヘキ額ヲ限リ出納閉鎖前ト雖モ繰越使用スルコトヲ得

第十七條　市費ノ支出ヲ爲サントスルトキハ市長ハ債主ヨリ請求書ヲ徵シ其請求書ヲ徵シ得サル者ニ對シテハ他ノ證憑書類ニ依リ正當ト認メタルトキハ速ニ收入役ニ對シ其仕拂ヲ命令スルモノトス

前項命令ノ手續ハ市長ニ於テ請求書又ハ其他ノ證憑書類ニ科目(款項目)ヲ記載シ各費目毎ニ命令ノ捺印ヲナシ收入役ニ交付スルモノトス

第十八條　收入役ニ於テ仕拂命令ヲ受ケタルトキハ債主ノ領收書ト引換ニ仕拂切符ヲ交付シ市金庫ヨリ現金ヲ受取ラシムヘシ

但シ代人ヲ以テ領收セントスル者アルトキハ委任狀ヲ徵スヘク又タ已ムヲ得サル事由ニ依リ債主ノ領收證書ヲ徵スルコト能ハサルトキハ他ノ證憑書類ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十九條　收入役前條ニ依リ仕拂切符ヲ交付セントスルトキハ先ツ仕拂案內切符ヲ市金庫ニ送付スヘシ

第二十條　現金前渡、概算拂、繰替拂ヲ要スルトキハ第十七條及第十九條ニ準シ取扱フモノトス

前項ノ仕拂金ハ速ニ精算ヲ完結セシムヘシ但シ行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依ル繰替拂金等ニシテ出納閉鎖期限マテニ精算完結セサルモノアルトキ之ヲ翌年度ニ移付シ整理ヲナスヘシ

第二十一條　誤拂過渡ニ係ル返納金ハ市長ニ於テ返納告知書ヲ發付スルモノトス

前項返納告知書ヲ發付シタルトキハ直チニ收入役ニ對シ戻入方ヲ命令シ收入役ハ之ヲ市金庫ニ通知スルモノトシ返納金領收ノ手續ニ關シテハ第二十七條ヲ適用シ過誤拂ニ係ル證書ニ返納年月日金額及其理由ヲ記載スルモノトス

第二十二條　仕拂切符ヲ亡失毀損シタルモノアルトキハ記名者ヨリ其理由ヲ詳記シ且市金庫

ニ就キ仕拂未濟ノ證明ヲ得タル屆書ヲ收入役ニ差出サシムルモノトス

收入役前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ正當ナリト認ムルトキハ之ヲ仕拂フヘキ旨ヲ附記シ署名捺印ノ上本人ニ交付シ之ト引換ニ市金庫ヨリ現金ヲ受取ラシムヘシ

第二十三條　收入役ハ第十七條ニ依リ交付ヲ受ケタル請求書及第十八條ノ領收證書ハ費目毎ニ區分シ編綴スヘシ

前項ノ書類ハ當該年度出納閉鎖後豫算表記載ノ科目順序ニ依リ之ヲ合綴シ表紙ヲ附シ保存スルモノトス

第五章　市金庫

第二十四條　市ニ於テ收入支出スヘキ現金ノ出納及保管ヲ爲サシムル爲メ市金庫ヲ置ク

第二十五條　市金庫ハ照校ニ供スル爲メ市收入役ニ印鑑並ニ事務取扱者ノ氏名印鑑ヲ差出スヘシ

市金庫ニ於テ出納上照校ニ供スル印鑑ハ市收入役ヨリ直ニ送付ヲナスモノトス

第二十六條　市金庫ノ取扱時間ハ本市役所昇廳時間ヨリ退廳ノ一時間前マテトス

但臨時至急ノ收入及支拂ヲ要シ又ハ納期ニ際シ收入金ノ輻輳スルトキハ時間ニ拘ラス之カ出納ノ取扱ヲ爲スモノトス

第二十七條　市金庫ハ徵稅令書、納額告知書、納付書、拂込書等ニ依リ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ領收證書ニ金庫印ヲ押捺シテ納入人ニ交付シ徵稅令書、納額告知書、納付書、拂込書、受納票等ハ金庫印ヲ押捺シ即日收入役ヘ提出スヘシ

第二十八條　市金庫ハ仕拂案内切符ノ送付ヲ受ケタルトキ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一、樣式ニ違フコトナキヤ

二、記載金額ヲ改竄塗抹シタルコトナキヤ

三、押捺セル印影ハ印鑑ト違フコトナキヤ

第二十九條　市金庫ハ市收入役ノ發シタル仕拂切符ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ仕拂案内切符ト對照シ其符合ヲ認メタル上現金ヲ交付シ仕拂切符及仕拂案内切符ニハ金庫印ヲ押捺シ仕拂切符ハ收入役ニ提出スヘシ

第三十條　市金庫ハ國庫又ハ縣庫等ニ拂込ヲ要スル仕拂案内切符ヲ受ケタルトキハ即日之ヲ

拂込ミ其領收證書ト引換ニ仕拂切符ヲ受クヘシ

第三十一條　市金庫ハ毎日收支シタル金額ハ其日分ヲ取纒メ出納日報ヲ調製シ證憑書類ト共ニ即日收入役ニ堤出スヘシ

收入役前項ノ出納日報及證憑書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ相違ナキトキハ市長ノ閲覽ヲ受クルモノトス

第三十二條　市金庫ハ左ノ場合ニ於テハ收入及仕拂ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス

一、徵税令書、納額告知書、納付書、返納告知書、拂込書、仕拂切符ノ式ニ違フトキ

二、仕拂切符ト支拂案内切符ト符合セサルトキ

三、徵令令書、納額告知書、納付書、返納告知書、拂込書、仕拂切符ニ記載ノ字體明瞭ナラス又ハ汚染若クハ毀損シテ其要部ヲ明カニ認メ難キトキ或ハ金額其他改竄塗抹變更ヲナシタルモノアルトキ

但シ改竄塗抹變更ノ個所ヘ收入役又ハ取扱者ノ證印アルモノハ此限リニアラス

四、仕拂停止ノ通知ヲ受ケタル仕拂切符ヲ以テ現金ノ交付ヲ求メタルトキ

五、第二十二條ニ依リ證明ヲ與ヘタル未拂金ニ該當スル亡失又ハ毀損ノ仕拂切符ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求シタルトキ

六、仕拂金額ノ現在金額ヨリ超過スルトキ

第三十三條　市金庫ニ於テ前條ニ依リ收入及仕拂ヲ拒ミタルトキハ即時其事實ヲ收入役ヘ報告スヘシ

第三十四條　市金庫ハ仕拂案内切符ヲ受ケタルモノニシテ翌年度六月末日迄ニ現金引替ヲ了セサルモノアルトキハ仕拂案内切符ヲ收入役ニ返付スヘシ

第三十五條　市金庫ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

一、現金出納簿

二、仕拂案内切符未濟書留簿

三、補助簿

前項ノ帳簿ハ合冊スルコトヲ得

第三十六條　市收入役ハ毎年六月、十二月ニ現金及帳簿ノ定期檢査ヲナスヘシ

前項ノ外臨時檢査ヲ行フコトアルヘシ

第三十七條　市金庫常時保管金ノ限度及運用金利率並ニ市町村制施行規則第六十一條ニ依ル擔保品ノ種類價格程度ハ市參事會ノ議決ヲ經テ市長之ヲ定ム

第三十八條　市金庫ノ印章ヲ定ムルコト左ノ如シ

直經八分

中部金庫名ハ固定文字

年月日ハ相當印字ヲ充植ス

丸亀市金庫印　年　月　日

第六章　出納檢査

第三十九條　出納例月檢査ハ毎月十日之ヲ行フ但シ休日ニ當ルトキハ順延トス

臨時檢査ノ期日ハ市長ニ於テ時々之ヲ指定ス

第四十條　例月檢査ハ前月末日現在臨時檢査ハ其時々定ムル處ノ現在ニ依リ之ヲ檢査ス

第四十一條　收入役ハ毎月末日現在ニ依リ收入支出表ヲ調製シ翌月七日迄ニ市長ニ提出スヘシ

臨時檢査ヲ行フトキハ前項ノ例ニ依リ其時々提出ヲ命スルコトアルヘシ

第四十二條　檢査ヲ爲スヘキ事項左ノ如シ

一　市長又ハ監督官廳ノ命令ナクシテ收入支出ヲ爲シタルコトナキヤ否

二　豫算執行ノ目的ニ違フコトナキヤ否

三　所屬年度ニ誤リタルコトナキヤ否

四　計數ニ違算ナキヤ否

五　收入金額ハ相當科目ニ收入シ且收入證憑書並ニ收入諸帳簿ト符合スルヤ否

六　支出金額ハ相當科目ヨリ支出シ且支出證憑書並ニ支出諸帳簿ト符合スルヤ否

七　現金ハ帳簿ト符合スルヤ否

八　右ノ外必要ト認ムル事項

附　則

第四十三條　本規程ニ依リ調製スル簿書ノ書式ハ特別ノ規程ニ依リ調製スルモノヽ外總テ市

長之ヲ定ム

第四十四條　本規程ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

但大正五年度ニ屬スルモノハ尚ホ從前ノ例ニ依ル

明治三十二年十月六日告示第三號ノ內出納檢査規則ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十五條　國縣稅其他歲入出外ニ係ル收支ハ本規程ニ準シ整理スルモノトス

本市財務取扱規程第四十三條ニ依ル簿書樣式

（大正六年三月三十一日決定）

記

一　市稅徵收簿（樣式第一號）
一　稅外收入簿（樣式第二號）
一　總括表（樣式第三號）
一　歲入（出）內譯簿金庫現金出納簿（樣式第四號）
一　市歲入歲出外收納書留簿（樣式第五號）
一　市有（基本）財產臺帳（樣式第六號）
一　市債臺帳（樣式第七號）
一　豫算差引簿（樣式第八號）
一　歲入出豫算通知簿（樣式第九號）
一　市稅課稅決判簿（樣式第十號）
一　縣市稅課稅決判簿（樣式第十一號）

一　稅外收入決判簿（樣式第十二號）
一　市諸徵收金滯納處分整理簿（樣式第十三號）
一　郵便切手受拂簿（樣式第十四號）
一　市有（基本）財產貸付臺帳（樣式第十五號）
一　備品臺帳（樣式第十六號）
一　市基本金（特別會計）收支命令簿（樣式第十七號）
一　特別會計收支內譯簿（樣式第十八號）
一　現金出納簿（市金庫ニ設備スルモノ樣式第十九號）
一　仕拂案內切符未渡書留簿（市金庫ニ設備スルモノ樣式第二十號）
一　徵稅令書（樣式第二十一號）
一　納額告知書（樣式第二十二號）
一　納付書（樣式第二十三號）
一　現金拂込書（樣式第二十四號）

一　督促狀及納額告知書（樣式第二十五號）
一　仕拂切符（樣式第二十六號）
一　收入日計表（樣式第二十七號）
一　出納日報市金庫ニ設備スルモノ（樣式第二十八號）

市税徴收簿（様式第一號）

番號	上半期分		下半期分		納税者氏名
	金額	收入年月日	金額	收入年月日	
第　號	円		円		

備考
一、附加税ニシテ本税ニ併記シ徴税令書ヲ發スルモノハ各本税ノ徴收簿ニ併記ス
二、卷末ニ豫算及實收額比較增減理由ヲ記載スルモノトス以下税外收入簿モ之ニ同ジ

税外收入簿（様式第二號ノ一）

番號	金額	收入年月日	備考	納入者氏名
第　號	円			

備考
一、科目ノ異ナル毎ニ調製スルモノトス
二、延滯金徴收簿ハ縣收入徴收簿ノ書式ヲ準用ス
三、戸籍ニ關スル手數料ハ戸籍及寄留取扱規程ニヨル戸籍閲覽交付簿ヲ以テ徴收簿ニ代用スルコトヲ得

稅外收入上屋使用料徵收簿

（樣式第二號ノ二）

第　號	番號	金額	摘要	徵收年月日	種類日數	備考	納入者住所氏名
		円					

稅外收入授業料、保育料徵收簿

（樣式第二號ノ三）

第　號	月額	入退學年月日	備考	兒童氏名	納主住所氏名	保証人住所氏名
	金					

十一月分	十二月分	一月分	二月分	三月分	金	徵收額計

四月分	五月分	六月分	七月分	九月分	十月分

備考

一、尋常科ニハ保証人欄ヲ使用セサルモノトス

歳入(出)內譯簿、金庫現金出納簿　（樣式第四號）

年月日		摘要	借方			貸方			借或貸	殘		
大正	年		圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢	厘

備考

一、金庫現金出納簿ハ本樣式ニ準シ借貸欄ヲ受拂ト改メ借或ハ貸欄ヲ削ル

總括表（樣式第三號）

年月日	摘要	調定額	棄損缺損	翌年度所屬へ延期	收入額	殘額

備考

一、一定ノ納期アルモノニ於テハ期別ニ之ヲ作リ其期ニ屬スル隨時收入ヲモ併記ス

二、稅外收入簿ノ如キ各科目合冊ノモノニハ其口座毎ニ本表ヲ添綴シ且鮮見出ヲ附ス

三、納付完了後調定額ノ減額ヲナシ現金ヲ還付シタルトキハ本表調定及收入額ニ其金額ヲ朱書ス

四、本表ハ月計及累計ヲ朱書スルモノトス

市歲入出收納書留簿（樣式第五號）

月日	國稅	縣稅	縣收入延滯金	滿濃池普通水利組合費	臨時寄托金	合計
	円	円	円	円	円	円

市有（基本）財產臺帳（樣式第六號ノ一）

土地	土地
丸亀市何町何字何番地 一田何反何歩 此地價何圓 內（外）畦畔又ハ何々何歩 （基本財產タラサルモノニアリテハ劈頭ニ其用途ヲ記ス）	一市制實施前ヨリ所有（年月日何地何某ヨリ何圓ニテ買受） 一年月日地目ヲ何ニ變換 一年月日何地某ヘ何圓ニテ賣却

土地合計之部

年月日	地目	反別	外歩反別	地價	筆數

（樣式第六號ノ二）

建物	
丸亀市何町何々地 一本家木造瓦葺二階建　一棟 間口何間　奥行何間 此建坪　何十坪 一附屬倉庫何々　一棟 間口何間　奥行何間 此建坪　何十坪 （基本財産タラサルモノニアリテハ劈頭ニ其用途ヲ記載ス）	一年月日建築此費金何程（年月日何地何某ヨリ何程ニテ買受） 年月日附屬倉庫建築此費何程 一年月日何地何某ヘ何程ニテ賣却

建物合計之部

年月日	棟數	建坪數
本家	附屬建物	本家
		附屬建物

（樣式第六號ノ三）

有價證券	
何々記號　何々番 記（無）名 何々額面　何程 但利率年何程　何月渡	一年月日何地何某ヨリ何番ニテ買入 一年月日何地何某ヘ何程ニテ賣却 （年月日償還當籤現金拂戻）

有價証券合計之部

年月日	種類	額面金額	計券枚數

本市基本金（樣式第六號ノ四）

年月日	收入	費消	現在高	摘要
	円	円	一、000,000円	舊帳簿ヨリ受何年何月何日現在
年 月 日	100,000		一、100,000	何某寄附金編入
月 日	三00,000		一、四00,000	何年度積立
月 日		五00,000	九00,000	何公債何圓券何枚何某ヨリ購入ニ付支出
月 日		三00,000	六00,000	何年度市經費ヘ繰入

備考

一、此帳簿ハ連年使用スルモノトス
二、本簿ハ市基本財産ト學校財産ト市有不動産ト各別ニ調製ス
三、土地建物、有價証券ニ於テ所有權喪失又ハ他ヘ所屬換ヲナシタルモノハ物件表示欄ヲ朱線抹消ス
四、建物ニ就テハ二百分ノ一ノ平面圖（所在ノ地番及建物ノ名稱番號アルモノハ其番號構造間尺建坪用途等ヲ記入シ敷地ノ方位ヲ示ス）ヲ添付ス

市債臺帳（樣式第七號）

市會議決日	年 月 日
公債額	金何程
利率	年利何程（月利何程）
借入日	年 月 日
起債ノ目的	何々學校々舍建築費支辨（又ハ何々）
起債ノ方法	銀行又ハ民間ヨリ借入（債券發行）
償還ノ方法	裏面償還豫定表ノ通ニシテ毎年元金ハ何月ニ利子ハ何月ニ支拂フ
許可認可ノ日及番號	年 月 日 號許可（認可）
償還ノ財源	市稅（又ハ何々）
債權者	住所氏名
摘要	契約上ノ變更其他必要ト認ムル事項ノ要領ヲ記ス

償還豫定 / 償還

年度	元金	利子	計	償還年月日	元金	利子	計	備考
	円	円	円		円	円	円	

備考

一、此帳簿ハ連年使用スルモノトス
二、本簿ハ市制第百二十二條ノ借入金ヲ除キ其他ノ負債ノ整理ヲ爲スタメ調製スルモノトス
三、償還終了ノトキハ朱線ヲ交叉シ欄外ニ還了ト朱書ス

豫算差引簿　（樣式第八號）

何々費（種目）

年月日	摘要	豫算額	支出額	殘額
四月一日	豫算決定額	100,000円	円	100,000円
十日	何費拂		10,000	90,000
何日	豫算增額	50,000		140,000
何日	豫算減額（朱書）	30,000		110,000

備考

一、本簿ハ種目毎ニ調製合冊シ歸見出ヲ附スヘシ
二、出納閉鎖後ハ豫算ニ對スル增減理由ヲ附記スルモノトス

歲入出豫算通知簿　（樣式第九號）

年月日	番號	摘要	金額	收入役印
			円	

市稅課稅決判簿　（樣式第十號）

調定月日	納期限	稅目	金額	摘要	市長	助役	課長	收入役	取扱主任	係員	氏名
			円								

縣市稅課稅決判簿　（樣式第十一號）

調定月日	納期限	縣稅目	金額	摘要	市稅目	金額	摘要	市長	助役	課長	取扱主任	係員	氏名
			円				円						

税外收入決判簿　（樣式第十二號）

月日	市長	助役	收入役	課長	主任	取扱者	發行項目	調定額	減額	摘要	氏名
								円	円		

市諸徵收金滯納處分整理簿　（樣式第十三號）

種目	滯納金額	納入期限	財産差押月日	公賣月日	摘要	滯納者
何税何期督促手數料	五〇〇〇 一〇〇 五一〇〇				何々ニ依リ執行中止（又ハ差押物件公賣前處分費滯納金納付公賣物件買受望人ナキヲ以テ見積金何程ニテ買上等ノ事ヲ記ス）	住所 氏名
計						

公賣決行以前收入金額	差押物件	差押物件通貨額	差押債權額	差押物件公賣代價	領收金額	處分諸費	滯納金額	殘餘還付額	缺損額	完結月日
円	何々何程 何々何程	円	円	円	円	円	円	円	円	円

備考
一、此帳簿ハ一年度若クハ數年度毎ニ調製スルモノトス
二、數年度分ヲ合冊スル場合ニ於テハ一年度毎ニ何年度分ト記シタル薄表紙ヲ挾ミ且鰭見出ヲ附ス

郵便切手受拂簿　（樣式第十四號）

年月日	摘要	種類	量目	受	拂	殘
				円	円	円

市有（基本財産）財産貸付臺帳　（樣式第十五號）

種別	使用期限	使用者
丸亀市一反別香地 此使用料一ヶ年金一次許可ノ分 金二次許可ノ分	一次許可自年月至年月	丸亀市町

年度分	月日收入	年度分	月日收入	年度分	月日收入	年度分	月日收入	年度分	月日收入	年度分	月日收入
月	、、	月	、、	月	、、	月	、、	月	、、	月	、、

備考
一、此帳簿ハ連年使用スルモノトス
二、建物貸付モ本簿ニ準ス

備品臺帳

（樣式第十六號）

品名	年月日	摘要	受拂ノ事由大別	受 數量	受 價格	拂 數量	拂 價格	殘 數量	殘 價格

備考

一、此帳簿ハ連年使用スルモノトス

二、學校役所等ノ各所屬ヲ合併スル場合ニ於テハ一所屬毎ニ薄表紙ヲ挾ミ鰭見出ヲ附スヘシ

三、凡テ備品ハ椅子、官報、法令全書等品目ノ異ナル毎ニ部譯ヲナシ卷首ニ記帳目標ヲ附スヘシ

市基本金（特別會計）收支命令簿

（樣式第十七號）

年月日	命令番號 收入 支出	摘要	命令者印	受拂殘 受	受拂殘 拂	受拂殘 殘	收入役取扱者印

特別會計收支內譯簿

（樣式第十八號）

年月日	摘要	豫算額	收入（支出）額	殘額

現金出納簿　（樣式第十九號）

年月日	摘要	收入額	支出額	殘額
月日	國稅本日收入高	円	円	円
月日	縣稅			
月日	何々			
月日	何々			

備考

一、補助簿ハ本樣式ニヨリ國縣市其他金種毎ニ口座ヲ設ケ記入スルモノトス

仕拂案內切符未渡書留簿　（樣式第二十號）

受入年月日	仕拂案內切符發行日	仕拂案內切符番號	金額	交付月日	債主氏名	備考
月日	月日		円	月日		
月日	月日			月日		

（樣式第二十一號）　市稅徵收令書

第　號	納主			
年度	丸亀市住民人	（家）	何々（頭）	何々（種目）
金一	右　年　月　日國ヨリ其他金種ノ通リ	其家事	何々	
	年　月　日			
	金額印	丸亀市長住民	何	來

金額印

第　號	納主			
年度	丸亀市住民人	（家）	何々（頭）	何々（種目）
金一				
右領收候也				
金額印	丸亀市長			金額

備考

一、國縣稅ニ附加スルモノトスル市稅ハ縣稅徵收令書ノ別記ニ徵收ス

金壹円

右領收候也

一金　何々

丸亀市金壹

年度　丸亀市費入

納主納

（何々）項（何々）目

金壹円

右　金

年　月　日限リ本市金壹（納付スベシ

丸亀市長何某　殿

納額告知書

様式第二十二號ノ一

收入印

右領收候也

一金

丸亀市費入役何某

年度　丸亀市費入　使用料及手數料　使用料　上屋使用料

納主納

收入印

右　金

年　月　日限リ本市費入役（納付スベシ

丸亀市費入役何某　殿

納額告知書

様式第二十二號ノ二

（樣式第二十二號ノ三）

何年度授業料（保育料）徵收令書

第　號

兒童　何　某

納主保護者　何　某

保証人

（尋常科授業料ハ本欄ヲ適用セズ）

一金　何　程

但何學校授業料（又ハ何々）

（様式第二十二號ノ三）

何年度授業料（保育料）徴收令書

第　號　兒童　何　某

納主保護者　何　某

保証人　（尋常科授業料ハ本欄ヲ適用セズ）

一金　何　程

但何學校授業料（又ハ何々）

前記金員毎月十日限リ本書ヲ添ヘ本市金庫ヘ納付スヘシ

年　月　日

丸亀市長　何　某　印

備考	市金庫領收書印欄					
	四月分	五月分	六月分	七月分		
	金庫印					
	九月分	十月分	十一月分	十二月分		
	一月分	二月分	三月分			

注意

一家族中二人以上同一校（園）ニ就學スルトキハ其一人ハ全額ヲ徴收シ其他ハ半額トス

一學校（園）ノ休業又ハ停學ヲ命セラレタルトキ或ハ兒童病氣ニヨリ届出ヅ怠ラス缺席スルコト全月ニ及フトキハ其月分ノ授業料（保育料）ヲ免除ス

一本書ヲ失損シ再度渡ストキハ相當代價ヲ納付セシム

受納票

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度三月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度一月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度十一月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度九月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度六月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　金庫印　何某納　年度四月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度二月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度十二月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度十月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度七月分

第　號　何々又ハ何料　一金何程　何某納　年度五月分

（様式第二十三號）

年度	九龍市歳入	（款）	（項）	（目）
納付書	一金　何々			
	右納付候也			
	年　月　日			
	納主何某			

納主	年度	九龍市歳入	（款）	（項）	（目）
	一金　何々				
	右領收候也				
	九龍市金庫				

（様式第二十四號）

現金拂込書

年度	丸龜市歳入又ハ何々
	何々
	何々
	何々

一金　何々

右拂込候也

年　月　日

職氏名

納主

年度	丸龜市歳入又ハ何々
	何々
	何々
	何々

一金　何々

右領收候也

丸龜市金庫

（様式第二十五號）

送達書

送達シタル書類	督促状　壹通
名宛人ノ氏名	
受取人ノ署名捺印	
送達シタル月日	月　日午　時
受取人無キトキ又ハ受取人受取ヲカ署名捺印ヲ拒ミタルトキ其理由	

右之通取扱候也

使丁

第　号　督促状及納税告知書

第　号　丸龜市　町　何　某

何年度（歩）（種）　月

一金
「一金」
合計金

督促手数料
「延滞金」

「延滞金ハ納期限ノ翌日ヨリ税金拾圓ニ付一日一厘ノ割合ヲ以テ計算ス」

右　年　月　日限リ本市金庫ニ納付スヘシ

「指定期限迄ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ハ徴收セス」

指定期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財産差押ノ處分ヲ爲スヘシ

年　月　日　丸龜市長何某印

領收証書

第　号　丸龜市　町　何　某

何年度（歩）（種）　月

一金
「一金」
合計金

督促手数料
「延滞金」

右領收ス

丸龜市金庫

備考
一、延滞金額ヲ徴收ノ際記入スルモノトス
二、延滞金ヲ徴收セサル場合ノ督促状ハ「」ノ内ノ文字ヲ除ク

（様式第二番七號）

市長㊞　助役㊞　収入役㊞　取扱主任㊞

年　月　日収入日計表

番號	科目	摘要	金額 円	錢	厘	番號	科目	摘要	金額 円	錢	厘
	財産ヨリ生スル收入						市税				
	貸地料						何々				
	貸家料						何々				
	何々						何々				
	計						何々				
	使用料及手數料						何々				
	國道使用料						何々				
	堤塘使用料						何々				
	墓地使用料						計				
	何々										
	何々										
	何々										
	何々										
	計										
	雜收入										
	何々										
	何々										
	何々										
	何々										
	計										
	何々										
	何々										
	何々										
	何々										
	何々										
	計										
	何々										
	何々										
	何々										
	何々										
	何々										
	計						合計				

符切拂支

一金何程

年月日

仕拂命令番號　第　號

渡　何某

丸龜市收入役何某㊞

符原

符切拂仕

一金何程

仕拂命令番號　第　號

渡　何某

丸龜市收入役何某㊞

符切內案拂仕

一金何程㊞

仕拂命令番號　第　號

渡　何某

（様式第二十六號）

（様式第二十八號）

出納日報

年　月　日

摘要	前日現在高	本日出納額 収入額	本日出納額 支出額	差引現在額	支拂未渡高
國稅ノ部	円	円	円	円	円
雜稅ノ部					
市歲入歲出ノ部					
何々					
何々					
何々					
何々					
何々					
何々					
雜ノ部					
計					

右之通リ相違無之候也

丸亀市收入役何某殿

丸亀市金庫

年　月　日　市金庫印

物品賣却貸與入札規程

（明治三十二年十一月四日告示第八號）

第一條　本市ノ物品賣却並ニ貸與ハ公ノ入札若クハ指名入札ニ依ル但物件ニヨリ入札ノ必要ナキモノハ特ニ賣却並ニ貸與スルコトアルヘシ

第二條　公ノ入札ヲ以テ賣却並ニ貸與スル場合ハ新聞又ハ掲示ヲ以テ左ノ事項ヲ公告スルモノトス

一　物件數量及其所在

一　入札開札場處日時

一　入札保證金額

一　賣却貸與年期

其他必要ノ事項

第三條　拂下又ハ貸下望ミノ者ハ其物件熟覽ノ上指定時刻迄ニ入札書ニ保證金ヲ添ヘ差出スヘシ

但保證金ハ落札人ハ第六條第七條ノ手續ヲ了セシ後其他ハ開札後直ニ還付ス

第四條　開札ハ入札人面前ニ於テ行フト雖モ指定ノ時刻ニ至レハ入札人參會ノ有無ニ拘ハラス開札シ其最高價ノモノ(數口アル時ハ一口毎高價ノモノ)ヘ落札ス

但最高價ノモノ二名以上アルトキハ其入札人ヲシテ更ニ增加ノ再入札ヲ爲サシメ尙同額ナルトキハ抽籤ヲ以テ落札ヲ定ム

第五條　落札金額不相當ト認ムルトキハ總テ入札ヲ取消シ直ニ再入札セシムルカ或ハ時日ヲ定メ更ニ入札ニ付スルコトアルヘシ

第六條　拂下落札ノ告知ヲ受ケタルモノハ直ニ落札保證金トシテ落札代金十分ノ一ヲ納メ五日以內ニ其殘金完納ノ上現品ヲ受取ルヘシ

第七條　貸下落札ノ告知ヲ受ケタルモノハ五日以內ニ二名以上ノ保證人連署ノ受書ヲ差出スヘシ

第八條　拂下落札人ニシテ第六條ノ保證金ヲ納メサルカ貸下落札人ニシテ第七條ノ受書ヲ差出サヽル時ハ其落札ヲ取消シ違約金トシテ入札保證金ヲ沒收ス

但本文取消ノ上ハ第二番札ヘ落札スルコトアルヘシ

九條　拂下落札人落札保證金ヲ納ムルモ五日以內ニ代金完納セサル時ハ其落札ヲ取消シ違約金トシテ落札保證金ヲ沒收ス

入札書式

拂下ノ分

一何々　何程

此入札代金何程

一何々　何程

此入札代金何程

一何々　何程

此入札代金何程

貸下ノ分

一何々　何年何月ヨリ何年何月マテ何ケ月(何ケ年)間

此使用料（一ケ月／一ケ年）何程

右入札候也

住所

年　月　日

姓名　印

丸亀市長　何某　殿

寄附物件處分規程

（改正）大正元年八月告示第八號

（明治三十二年十二月告示第十七號）

第一條　凡ソ物件ヲ寄附セントスルモノアルトキハ左ノ區別ニ依リ之ヲ許否ス

一、金穀物品ノ寄附ニシテ其目的事業ノ新設又ハ變更等ノ爲メ將來本市カ之ヲ繼續スルニ保存費ヲ要スルモノハ市會ニ於テ之ヲ許否ス

二、金穀物件ノ寄附ニシテ前項ニ該當セサルモノニアリテハ市長ニ於テ之ヲ許否シ許可シタルモノハ市會ニ報告ス

第二條　寄附物件ハ寄附者ノ指定シタル費途又ハ事業ニ使用ス其指定ナキモノハ基本財產ニ編入ス

第三條　寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絕シタル場合ニ於テ其物件使用前ナレハ寄附者ニ還附シ使用後ハ類似ノ事業ニ轉用ス

第四條　寄附物件ノ中元金原品ヲ委托又ハ据置キ其收益使用ノ方法ヲ以テ寄附シタルモノハ寄附者指定ノ事業若クハ費途ノ廢絕シタル場合ニ於テハ其元金原品及現存ノ收益等ハ寄附

者ニ還附シ收益ヲ以テ既ニ支辨シタル物件ハ他ノ事業ニ轉用ス

丸龜市營住宅貸與規則

（大正十一年十二月十四日告示第七十九號）

第一條　住宅ハ獨立ノ生計ヲ營ミ且同居家族ヲ有スル者ニ之ヲ貸與但シ一世帶一戸ニ限ル

第二條　住宅ハ市長ノ承認ヲ得ルニ非サレバ家族及使用人以外ノ者ヲ同居セシムルコトヲ得ス

第三條　住宅ノ賃貸料ハ市長別ニ之ヲ定ム但シ居住一箇月ニ滿タサルトキハ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ計算ス

第四條　住宅ヲ借受ケムトスル者ハ第一號樣式ノ申込書ヲ提出シ市長ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ承認ヲ受ケタルトキハ三日以內ニ二名ノ保證人ヲ定メ第二號樣式ノ契約證書ヲ提出スヘシ但シ場合ニ依リ保證人ヲ減シ若ハ免除スルコトアルベシ

第五條　前條第二項ノ保證人ハ現ニ本市內ニ居住シ直接國稅參圓以上ヲ納メ保證ノ責ニ任シ得ルモノト認メラルヽ者タルコトヲ要ス

第六條　借受人ハ毎月二十五日迄ニ翌月分ノ賃貸料ヲ支拂フヘシ但シ借受初月ノ分ハ貸與ノ

承認ヲ受ケタル際即時支拂フモノトス

第七條　火災豫防其他取締上必要ト認ムル時ハ市長ハ市吏員ヲシテ借受人ノ立會ヲ得テ隨時屋内ヲ檢査セシムルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ立會若ハ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　借受人ハ借受タル住宅ヲ轉貸シ又ハ構造ヲ變更スヘカラス若シ止ムヲ得ス之ヲ變更ヲ要スルトキハ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第九條　借受人本規則ニ違背シ又ハ不都合ノ行爲アルトキハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ催告ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ明渡スベシ

前項ニ依リ損害ヲ生スルモ市ニ對シ之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十條　借受人ニ於テ不可抗力ニ因ルニ非ラスシテ賃借物件ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ之カ賠償ノ責ニ任セシムルモノトス

第十一條　住宅ニ附屬セル疊建具其他ノ物件ニ對スル修繕費ハ借受人ノ負擔トシ家屋明渡ノ場合ニ於テ市ニ對シ之ガ修繕費ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十二條　借受人退居セントスルトキハ五日前ニ市長ニ申告シ建物其ノ他附屬物ノ檢査ヲ受ケ返還ノ手續ヲ爲スヘシ

附　則

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）

市營住宅借受申込書

一、丸龜市　町所在　號住宅　壹戸

一、家族　男何人　女何人

右借受度申込候也

年　月　日

住所
職業
氏名　印

丸龜市長　殿

（第二號樣式）

三錢收入印紙

市營住宅借受契約證書

丸龜市何町所在何號住宅

一、木造瓦葺本家二階建又ハ平家一戸及附屬建物附屬具別紙明細書ノ通リ

賃借料一箇月金何程

右借受候ニ付テハ賃借料ハ御規定ノ期日迄ニ納付スヘキハ勿論其他市營住宅貸與規則及ヒ諸般ノ命令ヲ遵守可仕最モ保證人ハ連帶ノ責ニ任スヘク候依テ契約證書差出候也

年　月　日

住所
借受人　氏　名　印

住所
保證人　氏　名　印

住所
保證人　氏　名　印

丸龜市長　殿

御成婚記念丸龜市都市改良基本財産蓄積條例

（大正十三年三月二十六日丸龜市條例第四十六號）

第一條　皇太子御成婚記念トシテ本市ハ本條例ニヨリ綜合的都市改良施設ノ基金ニ充ツル爲メ基本財産トシテ金額百萬圓ニ達スル迄蓄積ス

第二條　基本財産ノ蓄積ハ左ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一　寄附金

二　基本財産ヨリ生スル收入

第三條　基本財産ハ特別會計トス

第四條　基本財産ハ左ノ方法ニテ保管ス

一　國債證券有價證券ノ買入

二　大藏省預金又ハ確實ナル銀行及信用組合ニ預入

第五條　本市ノ公園、道路、衛生、教育、社會事業等都市改良施設ノ費用ニ充ツル爲市會ノ決議ヲ經テ蓄積金ヲ一時運用スルコトヲ得但シ相當ノ利子ヲ附シ積戻スルコトヲ要ス

丸龜市奬學資金蓄積規程

（大正十四年五月十日告示第三十號）

（改正）昭和三年六月六日告示第十一號

第一條　今上陛下銀婚式記念トシテ本規程ニ依リ奬學資金ヲ蓄積スルモノトス

第二條　本蓄積ハ左ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一、寄附金

二、蓄積ヨリ生スル利子

第三條　本蓄積並ニ支出ハ特別會計トス

第四條　本蓄積ハ左ノ方法ニ依リテ保管ス

一、國庫證券、有價證券ノ買入

二、確實ナル銀行及信用組合ヘ預ケ入

第五條　教育施設等ノ費用ニ充ツル爲メ市會ノ決議ヲ經テ一時運用スルコトヲ得但シ相當ノ利子ヲ附シ積戻スルコトヲ要ス

其ノ他本資金支出ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

徴税令書ニ用ユル市長日付印ニ關スル件

（大正十四年六月十一日告示第三十五號）

自今國税納税告知書、縣税徴税令書、仝徴税傳令書、縣税外收入納入告知書、市税徴税令書市税外收入納額告知書ヘ押捺スル本職々印ヲ其筋ノ許可ヲ得左之通定ム

職印雛形

直徑一寸

香川縣丸龜市水道公債條例

（大正十三年十二月十八日條例第四十八號）

（改正）大正十四年十月五日條例第五〇號

（改正）大正十五年六月二十九日條例第五三號）

第一條　本市水道布設事業費ニ充ツル爲メ額面總額金四拾七萬九千貳百圓以内ヲ公債スルモノトス

第二條　公債ハ大正十三年度大正十四年度ニ於テ之ヲ募集スルモノトス

但シ確實ナル銀行會社其ノ他ノ者ヲシテ其全部又ハ一部ノ募集ヲ引受ケシムルコトヲ得

市場ノ狀況其他ノ事由ニ依リ必要アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ銀行會社其他ヨリ借入レ若クハ五ヶ年度以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項短期債ノ元金ハ本條例ニ依ル長期債ヲ以テ之ヲ償還ス此場合ニ於テハ第一項ノ募集期間ヲ短期債ノ償還終期迄延期スルモノトス

第三條　本公債ハ無記名利札附ニシテ額面金額ハ千圓、五百圓、百圓、五拾圓ノ四種トス但シ應募者又ハ所有者ノ希望ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第四條　本公債ノ發行價格ハ額面百圓ニ付百圓トス

第五條　本公債ノ利率ハ一ヶ年百分ノ八以内トス

第六條　本公債ノ元金ハ大正十五年度迄据置キ大正十六年度ヨリ同三十八年度ニ至ル二十三ヶ年間毎年度抽籤ヲ以テ別紙年次表ノ通リ償還スルモノトス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲナシ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第七條　本公債ノ元利金ハ水道收入一般市費國縣補助金ヲ以テ償還ス

第八條　本公債元金ハ毎年末ニ於テ償還シ利子ハ毎年三月九月ノ二期ニ分チテ支拂フモノトス但シ利子ハ證書發行ノ時月ノ十五日以前ナルトキハ下半月分月ノ十六日以後ナルトキハ翌月分ヨリ起算シ仕拂ヒ又元金償還ニ係ルモノハ其償還ノ月マデ月割ヲ以テ仕拂フモノトス

本條例第二條第二項ニ依リ銀行會社其ノ他ヨリ借入タル場合ニ於ケル元利金償還期月ハ貸主ト協定スルモノトス

第九條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ之ヲ仕拂フモノトス

第十條　本公債ノ應募者ハ公告シタル期限内ニ應募高應募價格及住所氏名ヲ記シタル申込書ニ額面百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ本市長ノ指定スル銀行ニ提出スヘシ

但シ第三條但書ニ依リ記名證書ノ交付ヲ望ムモノハ本申込ト同時ニ其旨申告スヘシ

第十一條　前條ノ保證金ニハ利子ヲ付セス保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ編入スルモノトス

第十二條　本公債ノ應募總額カ募集額ヲ超過スルトキハ市長ニ於テ適宜募入ヲ決定スルモノトス

第十三條　本公債ノ元金拂込期ノ末日迄ニ拂込ヲ爲サヽルトキハ其翌日ヨリ拂込ノ日迄額面金額百圓ニ付一日四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收ス

前項拂込ヲ遲滯シタルモノカ期限後六十日以内ニ拂込ヲ爲サヽルトキ又ハ自已ノ都合ニヨリ申込ノ取消ヲ爲シタル時ハ保證金ハ之ヲ還付セズ

第十四條　償還當籤ノ公債證書ハ其種類記號及番號ヲ公告ス但シ一時ニ償還セントスルトキハ三十日前ニ其期日ヲ公告ス

第十五條　本公債ノ利子請求ノ權利ハ仕拂期日以降五ヶ年間元金請求ノ權利ハ償還期日後十ヶ年間行使セザルニ因リ消滅ス

第十六條　本公債證書又ハ其利札ヲ滅失又ハ紛失シタルトキハ直ニ之ヲ市長ニ屆出ッヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ニ依リ滅失又ハ紛失ノ屆出ヲナシタル後記名公債證書ニ在リテハ三ヶ月無記名公債證書ニ在リテハ一ヶ年ヲ經過シ仍發見セザルトキハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項代證書又ハ代利札交付ニ關スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第十七條　滅失又ハ紛失ノ屆出アリタル公債證書又ハ利札ハ代證書又ハ代利札ノ交付ニ因リ其效力ヲ失フ

第十八條　償還當籤ノ公債證書又ハ其利札ヲ滅失又ハ紛失シタルモノハ其證書又ハ利札ノ持參人カ償還又ハ仕拂ヲ受ケタル場合ニハ其金額及其仕拂ノ日以後ノ利子ヲ辨償スヘキ旨ヲ約シ保證人ヲ立テ又ハ擔保ヲ提供シ其元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　本公債ヲ償還スル場合ニ於テ其證書ニ附屬スベキ利札ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ元金ノ內ヨリ控除ス其利札ヲ提出シテ控除金額ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得

第二十條　記名證書ノ賣買讓渡ヲナシタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名書換ヲ請求スベシ

第二十一條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名書換ノ手續ヲナスベシ但隱居若クハ女戸主ノ入夫婚姻ニ因リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第二十二條　記名證書ノ所有者ノ遺言ニ依リ相續ニアラスシテ證書ヲ讓リ受ケタルトキハ其相續人ヲシテ保證人トナシ記名書換ノ手續ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ヲ以テ保證人トナスベシ

第二十三條　前各條ノ外必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

市金庫事務取扱銀行

（大正六年四月二日告示第二十四號）

（改正）大正十年十月二十日告示第五十二號
昭和二年八月二十九日告示第四十七號

左記銀行ヲ本市金庫事務取扱銀行ト定ム

株式會社　山陽銀行

城北尋常小學校設備資金蓄積並ニ管理規程

（昭和三年二月二十九日告示第二十七號）

第一條　城北尋常小學校設備及施設費ニ充ツル爲メ特別會計トシテ資金ヲ蓄積スルモノトス

第二條　本蓄積ハ左ノ收入ヲ以テ之レニ充ツ

一、寄附金

二、蓄積ヨリ生スル利子

第三條　本資金ハ確實ナル銀行又ハ信用組合ヘ預ケ入レ管理ヲナスト共ニ必要ニ應シ第一條ニ關スル費用ニ支出ス但シ元金ヲ使用セントスル時ハ市參事會ノ決議ヲ經ルモノトス

第四條　私設團体ニ於テ第一條ノ施設事業ヲナス爲メ必要アル場合ハ市參事會ノ決議ヲ經本資金ヲ一時貸與スルコトヲ得但シ相當ノ利子ヲ附スルモノトス

香川縣丸龜市港灣修築費公債條例

（昭和二年七月二十三日 條例第六十一號）

第一條　本市港灣修築費ニ充ツル爲メ額面總額金五萬圓以內ヲ起債スルモノトス

第二條　公債ハ昭和三年度ニ於テ之ヲ募集スルモノトス

但シ確實ナル銀行會社其ノ他ノ者ヲシテ其全部又ハ一部ノ募集ヲ引受シムルコトヲ得

市場ノ狀況其他ノ事由ニ依リ必要アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ銀行會社其他ヨリ借入レ若クハ五ヶ年度以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項短期債ノ元金ハ本條例ニ依ル長期債ヲ以テ之ヲ償還ス此場合ニ於テハ第一項ノ募集期間ヲ短期債ノ償還終期迄延期スルモノトス

第三條　本公債ハ無記名利札附ニシテ額面金額ハ千圓、五百圓、百圓、五拾圓ノ四種トス但シ應募者又ハ所有者ノ希望ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第四條　本公債ノ發行價格ハ額面百圓ニ付百圓トス

第五條　本公債ノ利率ハ一ヶ年百分六、五以內トス

第六條　本公債ノ元金ハ昭和四年度迄据置キ昭和五年度ヨリ同十三年度ニ至ル九ヶ年間每年

度抽籤ヲ以テ別紙年次表ノ通リ償還スルモノトス

但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲナシ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトヲ得

第七條　本公債ノ元利金ハ市歳入ヲ以テ償還ス

第八條　本公債元金ハ毎年十二月ニ於テ償還シ利子ハ毎年六月、十二月ノ二期ニ分チテ支拂フモノトス但シ利子ハ證書發行ノ時月ノ十五日以前ナルトキハ下半月分月ノ十六日以後ナルトキハ翌月分ヨリ起算シ仕拂ヒ又元金償還ニ係ルモノハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ仕拂フモノトス

本條例第二條第二項ニ依リ銀行會社其他ヨリ借入タル場合ニ於ケル元利金償還期月ハ貸主ト協定スルモノトス

第九條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ之ヲ仕拂フモノトス

第十條　本公債ノ應募者ハ公告シタル期限内ニ應募高應募價格及住所氏名ヲ記シタル申込書ニ額面百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ本市長ノ指定スル銀行ニ提出スヘシ

但シ第三條但書ニ依リ記名證書ノ交付ヲ望ムモノハ本申込ト同時ニ其旨申告スヘシ

第十一條　前條ノ保證金ニハ利子ヲ付セス保證金ハ元金拂込ノ際之ヲ元金ニ編入スルモノトス

第十二條　本公債ノ應募總額カ募集額ヲ超過スルトキハ市長ニ於テ適宜募入ヲ決定スルモノトス

第十三條　本公債ノ元金拂込期ノ末日迄ニ拂込ヲ爲サザルトキハ其翌日ヨリ拂込ノ日迄額面金百圓ニ付一日四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收ス

前項拂込ヲ遲滯シタルモノカ期限後六十日以内ニ拂込ヲ爲サザルトキ又ハ自己ノ都合ニヨリ申込ノ取消ヲ爲シタル時ハ保證金ハ之ヲ還付セス

第十四條　償還當籤ノ公債證書ハ其種類記號及番號ヲ公告ス但シ一時ニ償還セントスルトキハ三十日前ニ其期日ヲ公告ス

第十五條　本公債ノ利子請求ノ權利ハ仕拂期日以降五ヶ年間元金請求ノ權利ハ償還期日後十ヶ年間行使セサルニ因リ消滅ス

第十六條　本公債證書又ハ其利札ヲ滅失又ハ紛失シタルトキハ直ニ之ヲ市長ニ屆出ッヘシ之

ヲ發見シタルトキ同亦シ

前項ニ依リ滅失又ハ紛失ノ屆出ヲナシタル後記名公債證書ニ在リテハ三ヶ月無記名公債證書ニ在リテハ一ヶ年ヲ經過シ仍發見セサルトキハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項代證書又ハ代利札交付ニ關スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第十七條　滅失又ハ紛失ノ屆出アリタル公債證書又ハ利札ハ代證書又ハ代利札ノ交付ニ因リ其效力ヲ失フ

第十八條　償還常籤ノ公債證書又ハ其利札ヲ滅失又ハ紛失シタルモノハ其證書又ハ利札ノ持參人カ償還又ハ仕拂ヲ受ケタル場合ニハ其金額及其仕拂ノ日以後ノ利子ヲ辨償スヘキ旨ヲ約シ保證人ヲ立テ又ハ擔保ヲ提供シ其元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　本公債ヲ償還スル場合ニ於テ其證書ニ附屬スヘキ利札ニ不足アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ元金ノ內ヨリ控除ス其利札ヲ提出シテ控除金額ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得

第二十條　記名證書ノ賣買讓渡ヲナシタルモノハ双方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ記名書換ヲ請求スヘシ

第二十一條　記名證書ヲ相續シタルトキハ其相續人ハ請求書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ記名書換ノ手續ヲ爲スヘシ但隱居若クハ女戸主ノ入夫婚姻ニ因リ相續シタルトキハ本文請求書ニ前戸主ノ連署ヲ要ス

第二十二條　記名證書ノ所有者ノ遺言ニ依リ相續ニアラスシテ證書ヲ讓リ受ケタルトキハ其相續人ヲシテ保證人ト爲シ記名書換ノ手續ヲ爲スヘシ但シ相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親族二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第二十三條　前各條ノ外必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第八類　學務

丸亀商業學校學則

（大正七年三月二十八日文部大臣認可）

（改正）
大正九年四月十四日告示第二十六號
大正十年五月五日告示第十一號
大正十一年三月十五日告示第十二號
大正十三年四月一日告示第二十四號
昭和三年一月二十六日告示第四十一號
昭和三年二月十七日告示第十七號
昭和三年二月廿三日告示第十八號

第一章　總則

第一條　本校ハ商業學校規程ニ依リ將來商業ニ從事セントスル者ノ爲メニ必要ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第二條　本校ハ香川縣丸亀商業學校ト稱ス

第三條　本校ノ修業年限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、第一種　五ヶ年

二、第二種　三ヶ年

第四條　本校ノ生徒定員左ノ如シ

一、第一種　二百五十人
二、第二種　百五十人

第二章　學年學期日及休業日

第五條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條　學年ヲ分チテ三學期トシ四月一日ヨリ八月三十一日迄ヲ第一學期トシ九月一日ヨリ十二月三十一日迄ヲ第二學期トシ翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄ヲ第三學期トス

第七條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、祝日、大祭日
二、日曜日
三、夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日迄
四、冬季休業　十二月二十七日ヨリ翌年一月五日迄
五、創立記念日
六、氏神祭當日
七、學校長ハ學年始及學期末ニ於テ各二日以內學年末ニ於テ七日以內生徒ノ教授ヲ休止スル事ヲ得

第三章　學科課程及每週教授時數

第八條　本校ノ學科課程及每週教授時數ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種

學年	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年	
學科	課程	時數	課程	時數	課程	時數	課程	時數	課程	時數
修身	人倫道德ノ要旨	一	同上	一	同上	一	公民心得 商業道德	一	同上	一
國語 讀書	國漢文	五	同上	四	同上	三	同上	三	同上	二
作文	書翰文 普通文	二	同上	二	同上	二	商業文	一	同上	一
習字	楷書	二	行書	二	同上	一				
數學 珠算	珠算	二	同上	二	同上	二	商業算術	三	同上	二
數學 算術	算術	三	代數	二	同上	二	幾何	二	同上	二

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
地理	日本商業地理	二	同	上	外國商業地理	三
歷史	日本歷史	二	日本商業史	二	外國歷史	二
理科	博物	三	同	上	物理	二
英語	書通英語	七	同	上	書通英語 商業英語	七
商事要項			商業通論	二	商業各論	三
簿記			商業簿記	四	銀行簿記	三
商品					商品學大要	二
商業實踐					內外商業實踐	四
法制經濟					法制大意 商業法規 經濟通論	四 五
圖畫	自在畫 用器畫	一	同	上		
體操	體操教練 遊戲 武道	四	同	上	同	上
計		三		三		三

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
修身	人倫道德ノ要旨	一	同	上	同	上
國語 讀書	日常須知ノ文字 文章讀解	四	同	上	同	上
國語 作文	普通文 書翰文	二	同	上	商業文	二
國語 習字	楷書、行書、草書	二	同	上	同	上
算術	筆算及珠算	四	同	上	商業算術	四
地理歷史	內外商業地理 日本歷史	四	同	上	商業史	一
理科	博物	二	物理化學	二		
圖畫	臨畫、寫生、考案	一	同	上		
法制經濟		一	法制大意	二	法制大意 經濟大意	二
商事要項	商業大意	四	商業各論	四	同	上
						三

簿記	商業簿記	二	同上	三	銀行簿記	三
商品		一	一	一	商品學大要	二
商業實踐		一	一	一	內國實踐	三
英語	普通英語	四	同上	四	同上	四
体操	体操、教練、遊戲、武道	三	同上	三	同上	三
計		三三	三三	三三		三三

第九條　學校長ハ夏期休業日ノ前後十日以內每日ノ教授時數ヲ四時間迄ニ減少スルコトヲ得

第十條　授業終始時刻ハ季節ニヨリ學校長之ヲ定ムルモノトス

第四章　入學退學及休學

第十一條　生徒ノ入學ハ每學年ノ始メニ於テ之ヲ許ス但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十二條　生徒ノ募集人員及期日ハ學校長之ヲ定メ豫メ周知セシムルモノトス

第十三條　本校第一種、第二種共第一學年ニ入學ヲ許スヘキモノハ年齡十二歲以上ノ男子ニシテ尋常小學校卒業ノモノ又ハ之ト同程度ノ檢定ニ合格シタルモノトス

第十四條　第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキモノハ其ノ學年相當年齡ニシテ前學年程度ノ學科檢定ニ合格シタルモノトス

第十五條　入學志願者募集人員ニ超過シタル時ハ考査ニ依リ之レヲ選拔ス

第十六條　入學志願者ノ法定代理人ハ附錄第一號書式ノ入學願書ヲ卒業又ハ在學スル學校長ヲ經由シテ所定ノ期日迄ニ本校ニ差出スヘシ

第十七條　前條入學願書ヲ受理シタル小學校長ハ附錄第二號書式ノ報告書ヲ添ヘ本校長宛秘親展ニテ差出スヘシ

第十八條　入學ヲ許可セラレタルモノハ一週間以內ニ附錄第三號ノ書式ニ依リ在學誓書ヲ差出スヘシ

第十九條　前條在學誓書ニ連署スヘキ保證人ハ本市內ニ住居シ獨立ノ生計ヲ立ツル成年ノ男子ニシテ生徒ノ一身ニ關シ一切ノ責ニ任スルコトヲ得ル者ニ限ル但シ學校長ニ於テ不適當ト認メタル時ハ變更セシムルコトアルヘシ

第二十條　生徒ニシテ病氣其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ退學又ハ轉校セントスル時ハ其ノ事由ヲ具シ法定代理人及保證人連署ヲ以テ學校長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ此ノ場合ニ法定代理人或ハ保證人ノ一人ハ必ス學校ニ出頭ヲ要ス

第二十一條　保證人其ノ資格ヲ失ヒ若シクハ死亡シタル時ハ二週間以内ニ保證人ヲ定メ更ニ誓書ヲ差出スヘシ

第二十二條　法定代理人ヲ變更シタル時ハ速ニ其ノ本籍、住所、族稱、職業、生徒トノ關係氏名印鑑ヲ屆出テ更ニ誓書ヲ差出スヘシ

第二十三條　生徒及ヒ法定代理人又ハ保證人ニ於テ轉居改姓名其ノ他異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ學校長ニ屆出ツヘシ

第二十四條　生徒疾病又ハ止ムヲ得サル事由ニヨリ三ヶ月以上引續キ出席スル事能ハサル時ハ其ノ學年間休學ヲ許スコトアルヘシ

前項ニヨリ休學ノ許可ヲ得ントスルモノハ法定代理人保證人連署ノ上詳細事情ヲ具シテ願出ツヘシ但シ疾病ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十五條　生徒缺席シタルトキハ法定代理人若クハ保證人連書ノ屆書ヲ出席當日ヨリ三日以内ニ差出スヘシ但シ缺席一週日以上ニ亘リタルトキハ一週日毎ニ屆出テ其ノ疾病ニ罹ルモノハ醫師ノ診斷書添付スヘシ

第五章　考査及修業卒業

第二十六條　成績考査ハ各學期毎ニ該學期中所修ノ各學科課程ニ付平素ニ於テ之ヲ行フ

第二十七條　考査ノ成績ハ點數ヲ以テ評決シ各學科目一百點ヲ以テ定點トス但シ國語、數學英語、体操、商業實踐、法制經濟ニ付テハ學校長之レヲ數學科目ニ分割スルコトヲ得

第二十八條　各學科ノ學期評点ハ其ノ學期中ノ平素考査成績ニヨリ之レヲ評点ス學期及學年ノ試驗ヲ行ハサル學科目ニ付テハ其ノ日課點ノ平均數ヲ以テ評點ス

第二十九條　各學科目ノ學年評點ハ各學期評点ノ合計ヲ三分シタルモノトス

第三十條　各學科目ノ學年評點ハ各科平均四十点以上總平均六十点以上ノモノニ付操行ヲ考慮ノ上及第トス但シ學校長ノ見込ニヨリ前項以外ノ者ヲモ及第セシムルコトアルヘシ

第三十一條　生徒ノ操行ニ關シテハ其ノ性行勤惰其ノ他ノ行動ヲ參酌シテ甲乙丙丁ノ四種ニ

分チ之ヲ評定ス

第三十二條　卒業ヲ認定シタル者ニハ附錄第四號ノ書式ニ依リ卒業証書ヲ授與ス

第六章　賞　罰

第三十三條　操行善良學業優等精勤又ハ特ニ善行アリタルモノハ之ヲ賞スルコトアルベシ

第三十四條　校規ニ悖リ命令訓誡ニ服セサルモノハ左ノ各項ニ依リ學校長之ヲ懲戒ス

一、譴責　一、謹慎　一、停學　一、退學

第三十五條　生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルセノニハ退學ヲ命スヘシ

一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタルモノ

二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタルモノ

三、引續キ一ケ年以上缺席シタルモノ

四、正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタルモノ

五、出席常ナラサルモノ

第三十六條　故意ニ校舍器物ヲ汚損亡失シタル時ハ之ヲ辨償セシメ尙其ノ情狀ニ依リテハ懲戒スルコトアルベシ

第七章　授　業　料

第三十七條　授業料ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、第一種　本市内在籍者ハ三圓其ノ他ハ四圓トス

一、第二種　本市内在籍者ハ壹圓五十錢其ノ他ハ貳圓トス

第三十八條　授業料ハ毎月十日迄ニ納付スヘシ但シ學校ノ都合ニ依リ休業全月ニ渉リタル時ハ其ノ月分ノ授業料ハ徵收セス

第三十九條　中途入學セルモノハ入學許可ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ月分ノ授業料ヲ納付スヘシ

第四十條　生徒停學ヲ命セラレ若クハ缺席スル事全月ニ及フモ其ノ學籍ニアル間ハ授業料ハ減免セス但シ休學ヲ許可セラレタル場合ハ此ノ限ニアラス

第四十一條　授業料ノ納付期日ニ至リ滯納スルモノハ滯納中登校ヲ停止スルコトアルヘシ

第八章　寄　宿　舍

第四十二條　寄宿舍ハ當分内設置セス

第九章 補則

第四十三條 本則以外ノ必要ナル細則ハ學校長之ヲ定メ市長ノ許可ヲ經テ實施スルモノトス

第四十四條 本則ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十五條乃至第十七條ノ規定ノ改正ニ關シテハ本學則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號） 入學願（用紙ハ美濃型全紙）

本籍
住所
族稱及戸主トノ續柄

氏名（漢字ニハ振仮名ヲ付スヘシ）

年 月 日生

右ノ者今般御校第一種（第二種）第何學年ニ入學爲致度此段相願候也

年 月 日

右法定代理人

本籍
住所
族稱職業及本人トノ續柄（職業ハ事實其儘ヲ書クコト例ヘハ菓子製造業理髪業等）

氏名 印

香川縣丸亀商業學校長 氏名 殿

第二號書式 報告書

縣 郡 市 尋常 高等 小學校

入學志願者	生年月日	大正 年 月 日生

學業成績及出席欠席狀況（最近二ケ年）

項 / 學年	第 學年 科	第 學年 科
修身		
國語 讀方		
國語 綴方		
國語 書方		
國語 平均		
算術		
國史		
地理		
理科		
圖畫		
唱歌		
裁縫		
手工		
實業		
家事		
英語		
總評		
何人中 / 何番		
出席日數		
欠席日數 病氣		
欠席日數 事故		

身体狀況（最終學年）

項 / 學年	第 學年 科	
檢查年月日	學年 年 月 日	
年齡		
發育 身長		
發育 体重		
發育 胸圍		
發育 概評		
營養		
脊柱		
視力及屈折狀況 右		
視力及屈折狀況 左		
色神		
眼疾		
聽力		
耳疾		
齒牙		
其他ノ疾病異常		
監察要否		

健康ニ關スル狀況	

性行狀況	
性質	
素行	
特徴	

家庭狀況	
職業	
家族狀況 父	
家族狀況 母	
家族狀況 兄	
家族狀況 姉	
家族狀況 弟	
家族狀況 妹	
學資出所	
其他	
志望確否	
性能適否等	

總評學級得点百分比	標語	員數	百分比
	甲上		
	甲中		
	甲下		
	乙上		
	乙中		
	乙下		
	丙上		
	丙中		
	丙下		
	丁		

備考

（第三號）

三錢收入印紙

誓書

本籍
住所
族稱及戸主トノ續柄　氏名　年月日生

右ノ者今般御校ヘ入學許可相成候ニ付テハ御規則型ク相守ラセ可申ハ勿論拙者ニ於テ監督ノ責ニ任シ本人身上ニ關スル一切ノ件ハ屹度相引受可申猥ニ半途退學爲致間敷候也

年月日　右法定代理人
本籍
住所
職業及本人トノ關係　氏名　㊞

保證人
本籍
住所
職業　氏名　印

香川縣丸亀商業學校長　氏名　殿

（第四號）

卒業證書

校印

氏名
年月日生

右者本校所定第一種（五年程）第二種（三年程）ノ課程ヲ履修シ其業ヲ終ヘタリ依テ之ヲ證ス

年月日

香川縣丸亀商業學校長　氏　名印

割印

番號

丸亀市立丸亀實踐商工學校學則

（明治四十五年三月三十一日知事認可）

（改正）大正十三年十二月一日丸亀市告示第六十三號

（改正）大正十四年六月十三日告示第三十七號

第一章　總則

第一條　本校ハ小學校ノ教科ヲ卒ヘ商工業ニ從事スル者ニ對シ商工業ニ關スル知識技能ヲ授クルト共ニ國民生活ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條　本校ハ丸亀市立丸亀實踐商工學校ト稱シ當分ノ內城北尋常小學校內ニ併設ス

第二章　修業年限及入學資格

第三條　本校ノ修業年限及入學資格左ノ通リ定ム

課程	修業年限	入學資格
前期	二年	尋常小學校卒業者及高等小學校半途退學者
後期	二年	前期修了者及高等小學校卒業者

備考

一、尋常小學校卒業者ニアラザルモ學齡ヲ超エタル者又ハ中學校及之レニ準ズヘキ學校ヲ半途退學者ニシテ相當年齡ノ者ハ適當ノ部ニ編入セシム

二、或學科ニツキ特ニ學力優秀ナル者ハ當該學科ニ限リ上學年ノモノヲ學バシムル事ヲ得

三、後期ノ課程ヲ卒ヘ更ニ學習セントスルモノヽ爲メニ研究科ヲ設ケ一定ノ期間在學セシムル事ヲ得セシム

第三章　教授ノ季節及教授時數竝ニ休業日

第四條　本校ノ教授季節及教授時數竝ニ教授時刻ヲ左ノ通定ム

一、工業科ハ四月一日ヨリ十月三十一日迄トシ商業科及特別學級ハ通年教授トス

二、一ケ年ノ教授時數ヲ工業科ハ三百二十時トシ商業科及特別學級ハ四百二十時トス

三、一日ノ教授時數ヲ夜間二時間トシ特別學級ハ晝間二時間トス但シ始終ノ時刻ハ季節ニヨリ學校長適宜之ヲ定ム

四、工業科ノ教授ヲナサヽル月ニ於テハ毎月一回以上生徒ヲ召集シ講話若クハ實地指導ヲナス

第五條　本校ノ休業日ヲ左ノ通リ定ム

日曜、祝祭日

冬季休業　三十五日

學年末休業　十日

商工業繁休業

但シ商工繁休日ハ地方ノ實情ニヨリ學校長適宜之ヲ定メ臨時休業ノ必要ヲ生シタル時ハ官督官廳ノ許可ヲ受クルモノトス

第四章　教科目、程度、教授時數

第六條　本校ノ教科目ヲ左ノ通リ定ム

修身、國語、數學、商業(工業)地理、体操トス

第七條　本校ノ各科教授ノ程度及全學年間ノ教授ノ時數ヲ左ノ通リ定ム

學科程度	前期 第一學年 商業科	前期 第一學年 工業科	前期 第二學年 商業科	前期 第二學年 工業科	後期 第一學年 商業科	後期 第一學年 工業科	後期 第二學年 商業科	後期 第二學年 工業科	計
修身 道德ノ要領實踐指導公民ノ心得	3 3	2 7	同上	同上	3 3	2 7	同上	同上	
國語 日常須知ノ文字及文章ノ讀方書方綴方	123	101	同上	同上	123	101	同上	同上	
數學 整小諸等分步合比例珠算加減乘除	9 9	9 9	同上	同上	9 9	9 9	同上	同上	
體操 徒手體操及教練	3 3	2 7	同上	同上	3 3	2 7	同上	同上	
地理 商業地理大要	6 6		同上	同上	6 6		同上	同上	
商業 商業大要 簿記初步		6 6	同上	同上		6 6	商業要項 商業簿記	同上 銀行簿記	
工業 工業大要 用器圖		6 6	同上	同上		6 6	工具工作法 圖案製圖	同上 工場要項	
計	420	320	420	320	420	320	420	320	

備考

一、特別學級ハ特ニ個人指導ナルヲ以テ實地ニ就キテ各教科教程ハ學校長ニ於テ之ヲ選定ス

二、課外ニ英語及撃劍柔道ヲ課スルコトアルヘシ

三、商工業者團体ノ希望ニヨリ講習會ヲ開クコトアリ

第五章　修業及卒業

第八條　學校長ハ生徒平素ノ學業操行及出席日數等ヲ査定シ修了竝ニ卒業ヲ認定ス

第九條　前條ノ認定ニ依リ每學年ヲ修了シタル者ニハ第一號書式ノ修業證書ヲ授與シ後期及研究科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第一號書式　修業證書　（本文以外ノ書式ヲ略ス）

右ハ本校商(工)科前(後)期第何學年ノ課程ヲ修了セリ依ッテ之ヲ證ス

第二號書式　卒業證書

右ハ本校商(工)科前(後)期二箇年ノ課程ヲ卒ヘタリ依ッテ之ヲ證ス

第十條　本校ハ授業料ヲ徵收セス

但シ特別學級生徒ハ一ヶ月金二圓五十錢ヲ徵收ス

第七章　雜　則

第十一條　本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

丸龜市立六鄕農業補習學校學則

（大正十三年十二月一日　告示第六十三號）

第一章　總　則

第一條　本校ハ小學校ノ教科ヲ卒ヘテ農業ニ從事スルモノニ對シ農業ニ關スル知識技能ヲ授クルト共ニ國民生活ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ本旨トス

第二條　本校ハ丸龜市立六鄕農業補習學校ト稱シ城坤尋常小學校ニ併設ス

第二章　修業年限及入學資格

第三條　本校生徒ノ修業年限及入學資格左ノ如シ

男子部

課程	修業年限	入學資格	備考
前期	二ヶ年	尋常小學校卒業者又ハ之レニ準スヘキモノ	尋常小學校卒業者ニアラサルモ學齡ヲ超ヘタルモノ又ハ中學校及之ニ準スヘキ學校ノ半途退學者ニシテ相當年齡ノモノハ適當ノ部ニ入學セシム
後期	三ヶ年	前期ノ課程ヲ卒ヘタルモノ高等小學校卒業者又ハ之レニ準スヘキモノ	
研究科	二ヶ年	後期修了者又ハ之レニ準スヘキモノ	

女子部

課程	修業年限	入學資格	備考
前期	二ヶ年	尋常小學校卒業者又ハ之レニ準スヘキモノ	尋常卒業者ニアラサルモ學齢ヲ超ヘタルモノ又ハ高等女學校及之レニ準スヘキ學校ノ半途退學者ニシテ相當年齢ノ者ハ適當ノ部ニ入學セシム
後期	二ヶ年	前期ノ課程ヲ卒ヘタルモノ高等小學校卒業者又ハ之レニ準スヘキモノ	

第三章　教授季節及日數竝ニ休業日

第四條　本校ノ教授季節及日數左ノ如シ

男子部

一日ノ教授時數ハ二時間乃至三時間トシ前期後期何レモ一ヶ年ニ八十日以上教授スルモノトシ之レヲ左ノ通リ配當ス

毎週教授日	月、火、木、金	夜間午後七時ヨリ十時迄ノ間
自四月十五日	自四月三十日	自九月十五日　至十月二十日
自十二月十日	至十二月二十八日	自一月十日　至三月二十日

右ノ外五、六、七、十一ノ月ニハ毎月一回以上生徒ヲ召集シ講話若クハ實地指導等ヲナスモノトス

女子部

一日五時間宛一ヶ年百五十日以上教授スルモノトシ四、五、九、十、一、二、三月ノ毎月ニ於テ凡小學校ニ準ジ毎日開校ス但シ三月三十日限リ授業ヲ休止ス

第五條　本校ノ休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

男子ノ部　祝祭日及氏神祭典當日

女子ノ部　小學校ニ準ズ

右ノ外臨時休業又ハ教授日數變更ノ必要アル時ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルモノトス

第四章　學科目程度並ニ教授時數

第六條　本校ノ教科目左ノ如シ

男子部　修身、國語、數學、理科、農業、法制經濟、体操

女子部　修身、國語、裁縫、家事、算術、農業、体操

第七條　各科教授ノ程度及一ヶ年間ノ教授時數左ノ如シ

男子部

前期 教科目	教程	一年	二年	三年	計
修身	道德要旨	二〇	二〇	四〇	
國語	普通文ノ講讀 作文 習字	八〇	八〇	二六〇	
數學	筆算 珠算	六〇	六〇	二一〇	
理科 農業	理科大要 農業大要	四〇	四〇	八〇	
法制 經濟	同上ノ大要	—	—	—	
體操	教練	二〇	二〇	四〇	
計		三二〇	三二〇	四四〇	計

後期 教科目	教程	一年	二年	三年	計
修身	公民心得	四〇	四〇	四〇	一二〇
國語	普通文ノ講讀 作文 習字	四〇	四〇	四〇	一二〇
數學	筆算 珠算	三〇	三〇	三〇	九〇
農業	農業大要	七〇	七〇	七〇	二一〇
法制 經濟	同上ノ大要	二〇	二〇	二〇	六〇
體操	體操教練	二〇	二〇	二〇	六〇
計		二二〇	二二〇	二二〇	六六〇

研究科 教科目	教程	一年	二年	計
修身	公民心得	四〇	四〇	八〇
國語	普通文ノ講讀 作文 習字	—	—	—
數學	筆算 珠算	—	—	—
農業	農業大意	七〇	七〇	一四〇
法制 經濟	同上大意	二〇	二〇	四〇
體操	同上教練	二〇	二〇	四〇
計		一五〇	一五〇	三〇〇

体操ノ内柔道撃劍ヲ体操時間外ニ於テ随時課スルモノトス

女子部

前期 教科目	教程	一年	二年	計
修身	道德要旨作法	二五	二五	五〇
國話	普通文講讀 作文 習字	五〇	五〇	一〇〇
數學	筆算 珠算	五〇	五〇	一〇〇
家事 裁縫	通常衣服ノ裁縫仕方	五七五	五七五	一、一五〇
農業	地方的農業ノ大意	五〇	五〇	一〇〇
計		七五〇	七五〇	一、五〇〇

後期 教科目	教程	一年	二年	計
修身	道德要旨作法 公民心得	二五	二五	五〇
國語	普通文講讀 作文 習字	五〇	五〇	一〇〇
家事 裁縫	衣食住育兒看護 家計裁縫仕方	六〇〇	六〇〇	一、二〇〇
農業	農業大意	七五	七五	一五〇
計		七五〇	七五〇	一、五〇〇

右ノ外体操遊戯ヲ随時ニ課スルモノトス

但シ生徒ノ都合ニヨリ學科ヲ選ビ授業ヲ受クルコトヲ得

第五章　修業及卒業

第八條　學校長ハ生徒平素ノ學業操行及出席日數ヲ査定シテ修業並ニ卒業ヲ認定ス

第九條　前條ノ認定ニ依リ後期(女子)研究科二年(男子)ヲ修了シタルモノニハ卒業證書ヲ授與シ每學年ヲ修了シタルモノニハ修業證書ヲ授與ス其ノ書式左ノ如シ

卒業證書

右ハ本校ニ於テ所定ノ課程ヲ卒ヘタリ依ッテ之レヲ證ス

年　月　日　　氏　名

番號

修業證書

右ハ本校第何期第何學年ノ課程ヲ修了セリ依ッテ之レヲ證ス

年　月　日　　學校長名

番號　　氏　名

第六章　授業料

第十條　本校ハ授業料ヲ徴收セス

第七章　雜　則

第十一條　本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

丸亀市第一青年訓練所々則

（大正十五年六月廿九日告示第五十九號）

第一章　總則

第一條　本訓練所ハ青年訓練所令ニ依リ青年ノ心身ヲ鍛練シ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ以テ目的トス

第二條　本訓練所ハ香川縣丸亀市第一青年訓練所ト稱シ城乾尋常高等小學校ニ併置ス

第三條　本訓練所ノ訓練期間ハ四ケ年トス

第二章　訓練ノ項目時數及季節

第四條　訓練項目ハ修身及公民科教練普通學科及職業科トス

第五條　訓練時數ハ四ケ年ヲ通シテ修身及公民科百時間教練四百時間普通學科二百時間職業科百時間ヲ下ラザルモノトス

第六條　訓練項目ノ課程左表ノ如シ

項目及科目＼年次	第一年次		第二年次		第三年次		第四年次	
	時數	課程	時數	課程	時數	課程	時數	課程

職業科	商業	二五	商事要項	二五	同上	二五	簿記	二五	同上
普通學科	理科		物理ノ大要		化學ノ大要		同上		生理衛生
	地理		商業地理ノ大要		同上		地文學大要		同上
	歷史	五〇	內外近世史	五〇	同上	五〇	同上	五〇	同上
	數學		珠算加減乘除整數小數諸等數		同上		同上		同上
	國語		普通文講讀		同上		同上		同上
教練		一〇〇	各個教練 部隊教練 陣中勤務 巨離測量 旗號信 軍事講話	一〇〇	同上	一〇〇	同上	一〇〇	同上
修身及公民科		二五	國民道德ノ大要 公民心得	二五	同上	二五	同上	二五	同上

前項ノ訓練項目ハ教練ヲ除ク外適宜分合シテ之ヲ授クルコトアルヘシ

第七條　現ニ實業補習學校其他ノ學校ニ在學スル者若クハ相當ノ學力アリト認ムル者又ハ特別ノ事由アル者ニ對シテハ教練ヲ除クノ外一部ノ訓練項目ヲ課セザルコトアルベシ

第八條　訓練季節訓練日及毎訓練日始終時刻左ノ如シ

一、訓練季節

第一期　一月　二月　三月

第二期　四月　五月　六月

第三期　九月　十月　十一月　十二月

二、訓練日

毎週　三日　月、水、金曜ノ夜間トシ一ケ年ヲ通シテ七十日ヲ下ラザルモノトス而シテ訓練季節ニ該當セザル月ニ於テモ毎月一回以上青年ヲ召集シテ講話若クハ實地指導ヲ爲スモノトス

三、訓練時刻

一夜二時間以上トシ其始終時刻ハ季節ニ依リ主事ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

但シ必要ニ依リ晝間ナスコトアルベシ

第九條　本訓練所ノ毎年ノ訓練ハ一月ニ始マリ十二月ニ終ルモノトス

第三章　入所　退所　修了

第十條　本訓練所ノ入所期ハ毎年一月トス但シ特別ノ事情アリト認メタル者ハ中途入所ヲ許スコトアルベシ

第十一條　本訓練所ニ入所シ得ル者ハ九龜市内ニ居住シ年齢前年十一月三十日ニ於テ十六歲以上十七歲未滿ノ者トス

但シ特別ノ事情アリト認メタル者ハ年齢十七歲以上ニシテモ入所ヲ許スコトアルベシ

第十二條　最低年齢ヲ超ヘテ入所シタルモノ又入所期ヨリ遲レテ入所シタル者ト雖モ其ノ訓練ハ二十歲以上二十一歲未滿ヲ以テ終了スルモノトス

第十三條　本訓練所ニ入所セントスル者ハ前年十二月末日迄ニ左記附錄第一號書式ノ入所願書ニ義務教育終了及其後ノ學歷ヲ記入シタル履歷書ヲ添ヘ本訓練所ニ差出スベシ

第十四條　本訓練所ニ入所シタルモノハ所定ノ靑年訓練手帳ヲ所持セシム

第十五條　本訓練所ニ轉所シ來ル者ハ所定ノ訓練手帳ヲ差出シ主事ノ査閲ヲ受クベシ

第十六條　本訓練所ヲ退所セントスル時ハ其事由ヲ記シタル退所願ヲ差出シ且ツ靑年訓練手帳ニ所要事項ノ記入證明ヲ受クベシ

第十七條　訓練ヲ受クル者ニシテ住所身分等ニ變更ヲ生シタル時ハ一週間以內ニ主事ニ屆出ヅベシ

第十八條　所定ノ課程修了シタル者ニハ左記附錄第二號書式ノ修了證書ヲ授與ス

第四章　賞　罰

第十九條　本訓練所主事ハ訓練ヲ受クル者ニ對シ必要ナル賞罰ヲ行フコトアルベシ

第五章　其　他

第二十條　本訓練所ニ於テ訓練ヲ受クル者ヨリ費用ヲ徵收セス但シ特別訓練ヲ行フ場合必要ナル實費ハ之ヲ徵收スルコトアルベシ

第二十一條　本則以外必要ナル細則ハ主事ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

附錄第一號

入　所　願

私儀青年訓練所ニ入所致度候間御許可相成度履歴書相添へ此段相願候也

年　月　日

住所　職業

本人　氏　名　印

住所　職業

親權者　氏　名　印

丸亀市第一青年訓練所主事　氏　名　殿

履　歴　書

本籍　族籍　身分

住所

氏　名

生年月日

一、何年何月何々尋常(高等)小學校(尋常科高等科)ヲ卒業ス

一、何年何月何々(補習)學校(何期何學年修了)卒業ス

右之通リ相違無之候也

年　月　日

右氏名印

附錄第二號

第　號

修　了　證

訓練所印

氏　名

生年月日

右者本青年訓練所ノ課程ヲ修シタルコトヲ證ス

年　月　日

香川縣丸亀市第一青年訓練所主事　氏　名　印

丸亀市第二青年訓練所々則

第一章　總則

第一條　本訓練所ハ青年訓練所令ニ依リ青年ノ心身ヲ鍛練シ國民タル資質ヲ向上セシムルヲ以テ目的トス

第二條　本訓練所ハ香川縣丸亀市第二青年訓練所ト稱シ六郷農業補習學校ニ併置ス

第三條　本訓練所ノ訓練期間ハ四ケ年トス

第二章　訓練ノ項目時數及訓練季節

第四條　訓練項目修身及公民科教練普通學科職業科トス

第五條　訓練時數ハ四ケ年ヲ通シテ修身及公民科百時教練四百時普通學科二百時職業科百時トス

第六條　訓練項目ノ課程左表ノ如シ

項目及科目 ＼ 年次	第一年次			第二年次			第三年次			第四年次		
	時數	課程		時數	課程		時數	課程		時數	課程	

職業科	普通學科	教練	修身及公民科
農業	國語 數學 歷史 地理 理科 音樂	一〇〇	二五
二五	五〇		
普通作物 蔬菜 園藝	講讀作文習字 整珠小數諸等數算 日本歷史 日本地理 植物 音唱歌	各個教練 部隊教練 陣中勤務 巨離測量 旗信號 軍事講話 体操競技	國民道德要項 社會生活心得
二五	五〇	一〇〇	二五
同上 果樹 家畜 養鶏	同上 同上 同上 同上 動物 同上	同上	同上
二五	五〇	一〇〇	二五
土壌 肥料	同上 同上及分數歩合 外國歷史 外國地理 生理衛生 同上	同上	同上
二五	五〇	一〇〇	二五
農業經營 産業組合	同上 同上 同上 同上 日常物理化學 同上	同上	同上

前項ノ訓練項目ハ教練ヲ除ク外適宜分合シテ之レヲ授クルコトアルベシ

第七條　現ニ實業補習學校其他ノ學校ニ在學スル者若クハ相當ノ學力アリト認メラレタル者又ハ特別ノ事由アル者ニ對シテハ教練ヲ除ク外一部ノ訓練項目ヲ課セザルコトアルベシ

第八條　訓練季節訓練日毎訓練始終ノ時刻左ノ如シ

一、訓練季節一月、二月、四月、五月、八月、九月、十月、十二月トス

二、訓練日、毎週火水曜トシ壹ケ年ヲ通シテ七十日間以上トス訓練季節ニ該當セザル月ト雖モ少クトモ毎月一回以上青年ヲ召集シ講話若クハ實地指導ヲ爲スモノトス

三、訓練時刻　晝間　午前中三時間トシ其始終ノ時刻ハ季節ニヨリ主事ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

又必要ニヨリ夜間ニ變更スルコトアルベシ但シ水曜ニハ教練、火曜ニハ修身及公民科普通學科職業科ノ訓練ヲ行フ

第九條　本訓練所ノ毎年ノ訓練ハ一月ニ始マリ十二月ニ終ル

第三章　入所、退所、修了

第十條　本訓練所ノ入所期ハ毎年一月トス但シ己ムヲ得サル事情アリト認メタルモノハ中途之ヲ入所セシムルコトアルベシ

第十一條　本訓練所ニ入所スルコトヲ得ルモノハ丸亀市内ニ居住シ年齢前年十一月三十日ニ於テ十六歳以上十七歳未滿ノ者トス

但シ己ムヲ爲サル事情アリト認メタル者ハ年齢十七歳以上ニシテ入所セシムルコトアルベシ

第十二條　最低年齢ヲ超ヘテ入所シタルモ又入所期ヨリ遲レテ入所シタルモノト雖モ其訓練ハ年齢二十歳以上二十一歳未滿ヲ以テ終了スルモノトス

第十三條　本訓練所ニ入所セントスル者義務教育終了後學歷ヲ摘記シタル履歷書ヲ添ヘ願書ヲ本訓練所ニ差出スベシ

第十四條　本訓練所ニ入所シタルモノニハ所定ノ訓練手帳ヲ所持セシムベシ

第十五條　本訓練所ニ轉所セントスル者ハ本訓練所ニ青年訓練手帳ヲ提示スベシ

第十六條　本訓練所ヲ退所セントスル時ハ其ノ事由ヲ述ベ且ツ青年訓練手帳ヲ提出シ出席時數其他必要ナル事項ノ記入證明ヲ受クベシ

第十七條　訓練ヲ受クルモノニシテ居住所身分等ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間以內ニ主事ニ屆出ツベシ

第十八條　所定ノ課程ヲ終了シタル者ニハ左記樣式ノ修了證ヲ授與ス

第　號　修　了　證

訓練所印

氏　名

生年月日

右者本青年訓練所ノ課程ヲ修了シタルコトヲ證ス

年　月　日

香川縣丸亀市第二青年訓練所主事　氏　名　㊞

第十九條　本訓練所主事ハ訓練ヲ受クル者ニ對シ必要ナル賞罰ヲ加フルコトアルベシ

第五章　其　他

第二十條　本訓練所ニ於テハ訓練ヲ受クル者ヨリ費用ヲ徵收セズ但シ特別訓練ヲ行フ場合必要ナル實費ハ之ヲ徵スルコトアルベシ

第二十一條　其他實施上必要ナル細則ハ主事ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第九類　使用料、手數料、市稅及賦課徵收

徴收金督促條例

（明治三十六年一月條例第九號
（改正）明治四十五年三月條例第一八號

（明治三十六年一月十二日條例第三號）

第一條　市税其他諸收入金ヲ定期内ニ完納セサルモノアルトキハ市制第百三十一條ニ依リ督促狀ヲ發ス

第二條　督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ一通毎ニ金五錢ヲ徴收ス

第三條　督促手數料ハ督促狀ニ記載シ滯納金ト同時ニ之ヲ徴收ス

第四條　市外ニアル滯納者ニ對シ督促スルトキハ第二條手數料ノ外郵便ヲ以テシタルトキハ其實費ヲ增手數料トシテ徴收ス

第五條　滯納者ノ所在知レサルトキ又ハ督促狀ノ受領ヲ拒ミタルトキハ本市掲示場ヘ之ヲ公示シ二日ヲ經過シタルトキハ送達ヲ了シタルモノト看做ス

第六條　本條例ハ定期内不履行ニ係ル夫役現品滯納ニ係ル夫役現品ニ代フル金錢ノ督促及急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ノ不履行ニ依リ更ニ金錢ノ納付ヲ命スル場合ニモ之ヲ準用ス

手數料徵收條例

（明治三十三年四月十四日條例第六號）

（改正）明治三十八年三月條例第一〇號
明治四十五年三月條例第一六號
大正十年三月二十三日條例第三十八號
昭和三年五月十四日條例第五十九號

第一條　市制第百十二條ニ依リ左ノ事項ニ付其請求者ヨリ手數料ヲ徵收ス

但法律命令ニ依リ取扱フモノハ手數料ヲ徵收セス

一、印鑑證明閲覧及照合　一件ニ付　金貳拾五錢

二、身分及住居ニ關スル證明　同　金貳拾五錢

三、營業資格ニ關スル證明　同　金七拾錢

四、土地建物並ニ船舶ニ關スル證明　同　金貳拾五錢

五、資產ニ關スル證明　同　金五拾錢

六、納稅ニ關スル證明　同　金貳拾五錢

七、里程ニ關スル證明　同　金貳拾五錢

八、土地ノ丈量ニ要スル人件費等ハ其實費ヲ徵收ス

但シ本市ニ於テ雇傭セル者ニ在リテハ其給料額ニ據ル

九、公簿書類ノ謄本抄本　原本一葉ニ付　金貳拾五錢

十、公簿書類圖面ノ照合閲覽　一件ニ付　金拾五錢

第二條　前條ノ公簿書類ハ公衆ノ閲覽ニ供シ差支ナキモノニ限ル

第三條　手數料ハ謄本抄本證明照合及閲覽請求ノ際之ヲ徴收ス

土地丈量手數料ハ請求ノ際ハ概算額ヲ豫納セシメ終了後精算額ヲ徴收ス

但シ手數料ヲ納付シタル後其請求ヲ取消スモ手數料及豫納金ハ還付セス

第四條　本市住民ニシテ現ニ公費ノ救助ヲ受クル者及特種ノ事由アルモノニ對シテハ市長ニ於テ減免スルコトヲ得

屠場使用料條例

（明治四十三年二月二十三日條例第十二號）

（改正）大正十一年九月二十二日丸亀市條例第四十四號

第一條　本市設置ノ屠場ヲ使用スル者ハ左ノ使用料ヲ徴收ス

一牛　馬　各一頭ニ付　金壹圓五拾錢

一豚　一頭ニ付　金七拾五錢

一犢　牛　各一頭ニ付　金五拾錢

第二條　使用料ハ屠場使用前納付スヘシ

第三條　使用料納付後病畜其他ノ事故ニ依リ屠殺セサルトキハ其使用料ヲ還付ス

第四條　屠場ニ關スル法規ニ從ハサル者ハ入場ヲ拒絶ス

第五條　本條例ニ關スル必要ナル事項ハ別ニ規程ヲ以テ定ム

附　則

第六條　本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

附　則（大正十一年九月二十二日告示第四十四號）

本改正ハ大正十一年十月一日ヨリ施行ス

共葬墓地使用料條例

（明治四十三年三月條例第一三號）

（改正）明治四十五年三月條例第一七號
大正九年三月三十一日條例第三十三號

第一條　墓地ノ使用ハ戸主ヨリ申請スヘシ戸主死亡シタル場合ハ其遺族若ハ縁故アル者ノ戸主ヨリ申請スヘシ縁故アル者ノ戸主アラサルトキハ縁故者ヨリ申請スヘシ

第二條　本例ニ於テ墓地一個ト稱スルハ曲尺方參尺トス

第三條　墓地使用料ハ一個ニ付左ノ等級ニ依リ使用許可ノ際之レヲ徴收ス

等級	金額
一等地	參圓
二等地	貳圓
三等地	壹圓五拾錢
等外	無料

但シ等外地ハ貧者又ハ行旅死亡者等ノ使用ニ充テ市長之ヲ認定許可ス

第四條　墓地ヲ使用セントスルモノハ申請書ニ等級場所及ヒ個數ヲ掲ケ墓地管理者ノ認印ヲ

受ケ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　墓地ノ位置撰定ハ使用者ノ望ニ應スヘシト雖トモ毎區ニ於テ其一端ヨリ又既ニ使用ヲ許可シタル場所アルトキハ其接續ノ場所ヨリ順次使用ヲ許可スルモノトス

但場合ニ依リ其順序ニ據ラサルコトアルヘシ

第六條　墓地使用ヲ許可シタル者ト雖トモ一ケ年以上其圍障ヲ設置セス又ハ埋葬セサル者ハ他人ニ使用ヲ許可シ既納使用料ハ還付ス

第七條　墓地使用者ハ家督相續人ヲ除ク外其使用權ヲ他人ニ移轉スルコトヲ許サス若シ不用ニ歸シタルトキハ返地屆書ニ等級場所及個數ヲ記載シ管理者ヲ經テ市長ニ差出スヘシ

第八條　未埋葬地使用ノ權ヲ有スルモノ住所ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度墓地管理者ニ屆出ヘシ

第九條　墓地使用ノ許可ヲ受ケ其圍障ヲ設ケントスル者ハ申請書ニ圖面並ニ仕樣書ヲ添付シ管理者ノ認印ヲ受ケ市長ノ承認ヲ受クヘシ

特別稅電柱稅條例

（大正元年十二月二十六日　條例第二十一號）

（改正）大正九年六月五日條例第三十四號
大正十四年十一月二十八日條例第五十一號

第一條　電柱稅ハ營利事業ノ爲メ市內ニ電柱ヲ建設スル者ヨリ之ヲ徵收ス

但開業ノ日ヨリ滿三ケ年間ハ本稅ヲ課セス

第二條　電柱稅ハ電柱（鐵塔ヲ含ムモ支柱ヲ含マス）一個ニ付年額金貳圓五拾錢以內ニ於テ毎年市會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

第三條　電柱稅ハ其年額ヲ折半シ前期ハ四月一日後期ハ十月一日ノ現在ニ依リ賦課徵收ス

第四條　納稅者ハ毎年四月一日及十月一日ノ現在電柱數ヲ四月三十日及十月三十一日マデニ屆出ツヘシ

但新ニ電柱ヲ建設セントスルトキハ其時々屆出ツヘシ

第五條　四月二日以後及十月二日以後新ニ建設セル電柱ノ其期分ノ稅金ハ月割ヲ以テ隨時之ヲ賦課徵收ス

第五條ノ二　大正十四年四月一日以後ニ建設セル電柱ニハ當分ノ內本稅ヲ免ス

附　則

第六條　本條例ハ大正二年一月一日ヨリ施行ス

但大正元年度稅金ハ大正二年一月一日ノ現在電柱個數ニ依リ月割ヲ以テ賦課徵收シ同日以後新ニ電柱ヲ建設セシトキハ第四條第五條ヲ準用シ隨時之ヲ賦課徵收ス

附　則（大正九年六月五日條例第三十四號附則）

本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

特別消費稅條例

（大正十一年一月一日條例第四十號）

第一條　市制第百十七條ニ依リ本市ニ特別稅トシテ特別消費稅ヲ設ク

第二條　特別消費稅ハ本市內ニ於テ藝妓又ハ娼妓ヲ招聘シタル者ニ對シ之ヲ賦課ス

第三條　特別消費稅ハ左ノ標準ニ依リ每年度市會ノ議決ヲ經テ之ヲ賦課シ隨時徵收ス

一、藝妓招聘料金ノ　百分ノ五以內

二、娼妓招聘料金ノ　百分ノ三以內

第四條　藝妓娼妓招聘ノ仲介者ハ特別消費稅徵收義務者トス但仲介者二名以上ニ亙ルトキハ市長ニ於テ其一名ヲ選定ス

第五條　徵收義務者ハ市長ノ指示ニ從ヒ課稅上必要ナル事項ヲ市長ニ申告スヘシ

第六條　市長ハ吏員ヲシテ徵收義務者ニ就キ書類帳簿ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ一行爲每ニ五圓以下ノ過料ヲ科ス但シ自首シタルトキハ之ヲ科セサルコトアルヘシ

一、虛僞其他不正ノ手段ヲ以テ脫稅ヲ計リタル者

二、第五條ノ申告ヲ怠リ注意ヲ受クルモ尙其手續ヲ爲サヽル者

三、正當ノ理由ナクシテ第六條ノ檢査ヲ拒ミタル者

附　則

第八條　本條例施行ニ關スル細則ハ市長之ヲ定ム

第九條　本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特別消費稅條例施行細則

（大正十一年一月一日告示第一號）

第一條　特別消費稅ハ市內ニ於テ藝妓又ハ娼妓ヲ招聘シタル者ニ對シ其都度之ヲ賦課ス

第二條　數人共同ノ上藝娼妓ヲ招聘シタル者ニ對シテハ其ノ招聘料金總額ヲ標準トシテ課稅シ招聘者ヲシテ連帶義務ヲ負ハシム

第三條　條例第四條ノ特別消費稅徵收義務者ヲ左ノ通リ指定ス

一、藝妓招聘ノ場合ニ於テハ其仲介ヲ爲シタル藝妓券番代表者

二、娼妓招聘ノ場合ニ於テハ其仲介ヲ爲シタル貸座敷業者

第四條　前條ノ徵收義務者ハ第一號樣式ノ徵收臺帳ヲ調製スヘシ

第五條　徵收義務者ハ條例第五條ニ依リ毎月二日迄ニ前月ノ招聘料金及消費稅額等ヲ第二號樣式ニ依リ市長ニ申告スヘシ

但シ市長ニ於テ必要ト認ムル場合ハ臨時申告セシムルコトアルヘシ

第六條　市長ニ於テ前條ノ申告ヲ受ケタルトキハ徵收義務者ニ對シ本市財務取扱規程樣式第二十二號ノ一ニ準スル拂込告知書ヲ發行ス

但シ場合ニ依リ申告ヲ待タス告知書ヲ發スルコトアルヘシ

第七條　徵收義務者徵收スヘキ稅金ヲ指定期間內ニ之ヲ本市金庫ニ拂込マサルトキハ市長ハ更ニ相當ノ期間ヲ指定シ督促狀ヲ發付ス

第八條　徵收義務者前條ノ督促狀ヲ受ケ其ノ指定期間內ニ之ヲ拂込マサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

第九條　大正九年勅令第百六十九號第三條ニ依リ交付金左ノ二期ニ分チ每期ノ翌月末日迄ニ之ヲ交付ス

第一期　自其年四月一日至其年九月三十日

第二期　自其年十月一日至翌年三月三十一日

第十條　條例第六條ニ依リ市吏員帳簿書類ノ檢査ヲ爲ストキハ第三號樣式ノ證票ヲ携帶セシム

第十一條　徵收義務者ハ臨檢ノ市吏員ヨリ帳簿ノ記載事項ニ就キ說明ヲ求ムルトキハ速ニ之ニ應スヘシ

第十二條　徵收義務者ハ徵稅ニ關スル書類帳簿ヲ年度經過後五ケ年間保存スヘシ

第十三條　本細則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第一號樣式　特別消費稅臺帳

月日	招聘料金	消費稅金	招聘場	花代本數又ハ時間數	一本又ハ一時間ノ料金	備考

備考

一、備考欄ニハ課稅上必要事項アリタルトキハ記入スルモノトス

二、招聘場所ガ料理屋宿屋等ニシテ藝妓招聘ノ度數多キモノハ其店每ニ口座ヲ設ケ記入スルモノトス

三、每期ノ終リニハ口座每ニ集計シ尙ホ便宜ノ方法ニ法リ各期ノ總計ヲ記入スベシ

四、娼妓ニ係ル分ハ招聘場以下三欄ヲ省キ備考欄ニ遊興ハ延人員ヲ記入スベシ

第二號樣式　特別消費稅ニ關スル申告書

年　月　日　住所

徵收義務者（納稅義務者）

氏　　名

丸亀市長宛

期間	招聘料金	消費稅額	花代本數又ハ時間數	一本又ハ一時間料金	備考

備考

一、娼妓ニ係ル分ハ消費稅額ノ次ノ二欄ヲ省キ備考欄ニ遊興延人員ヲ記入スヘシ

第三號樣式

市稅檢査員之證票

職氏名

巾二寸

縱三寸

特別稅特別消費稅停止條例

（大正十一年八月三十日條例第四十三號）

特別稅特別消費稅ハ香川縣ニ於テ遊興稅施行中其施行ヲ停止ス

附　則

本條例ハ大正十一年五月十日以降ノ分ニ適用ス

授業料竝ニ保育料徴收規程

（明治三十五年二月告示第五號）

（改正）
明治四十年四月二十六日告示第九號
同四十二年六月二十五日告示第十五號
大正元年八月二十三日告示第八號
大正二年八月二十日告示第三十三號
大正六年九月十日告示第五十六號
大正九年四月八日告示第二十二號
大正十一年三月二十五日告示第九號
大正十一年三月十六日告示第十三號
大正十三年四月一日告示第二十二號

第一條　市立小學校兒童一ヶ月高等科授業料金六拾錢幼稚園保育料金壹圓トシ毎月十日迄ニ保護者又ハ保證人ヨリ徴收ス

第二條　他町村ヨリ就學スル兒童又ハ入園スル幼兒ニ對シテハ高等科授業料及幼稚園保育料各金貳圓ヲ徴收ス

第三條　一家族中兒童二人以上同一小學校ニ就學ノ場合ハ一人ハ全額其他ハ半額ヲ徴收ス幼稚園ハ東西ヲ通シテ同一園ト看做シ本條ヲ準用ス

第四條　休業疾病其他ノ事由ニ依リ缺席全月ニ及フトキハ其月分ノ料金ヲ免除ス

第五條　貧窮ノ爲メ規程ノ授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ減免スルコトアルヘシ

第九條　使用料、手數料、市稅及賦課徴收

附　則

第六條　本規程ハ大正二年九月一日ヨリ施行ス

附　則

本改正ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年三月十六日告示第十三號分）

丸龜市市稅徵收期限

（大正二年二月十三日告示第四號）

（改正）
大正九年七月二十四日告示第五十四號
大正十二年一月十日告示第四號
大正十三年七月二十二日告示第四十六號
大正十三年九月一日告示第四十七號
昭和　年八月一日告示第四十號

第一條　丸龜市市稅ハ左ノ期限ニ依リ之レヲ徵收ス

一　特別稅戶數割

上半期分　全額ノ二分ノ一

十月一日ヨリ同三十一日限リ

下半期分　全額ノ二分ノ一

十二月一日ヨリ同二十五日限リ

二　特別稅埋築免租地反別割

上半期分　全額ノ二分ノ一

四月十六日ヨリ同三十日限リ

下半期分　全額ノ二分ノ一

十一月十六日ヨリ同三十日限リ

三　國稅附加稅（地租附加稅ヲ除ク）縣稅附加稅ハ各本稅ノ納期ニ從フ

四　國稅附加稅ノ內地租附加稅ハ縣稅地租附加稅ノ納期ニ依ル

第二條　特別稅戶數割條例第八條ニ依リ賦課スル稅金ハ其都度市長ニ於テ徵稅令書ヲ以テ其納期日ヲ定ム

附　則

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（但シ昭和二年度分特別稅埋築免租地反別割上半期分ハ九月一日ヨリ同月三十日限リトス

丸龜市共同荷揚場使用料條例

（改正）大正十四年三月二十日條例第四十九號

（大正四年九月一日條例第二十四號）

第一條　本市共同荷揚場ヲ使用スル者ニ對シ使用料ヲ徵收ス

第二條　本市共同荷揚場ヲ使用セントスルモノハ其ノ荷物ノ種類數量及日數竝ニ使用坪數ヲ申出テ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　本市共同荷揚場（上屋內ヲ除ク）使用料ハ左ノ區別ニヨリ徵收ス

一、五日以上十日以內ハ壹坪ニ付一日金五錢

二、十一日以上十五日以內ハ壹坪ニ付一日金拾錢

三、十六日以上二十日以內ハ壹坪ニ付一日金貳拾錢

四、二十一日以上二十五日以內ハ壹坪ニ付一日金貳拾五錢

五、二十六日以上三十日以內ハ壹坪ニ付一日金參拾錢

六、使用坪數壹坪未滿ハ壹坪ヲ以テ計算ス

七、使用期間五日未滿ノモノハ使用料ヲ徵收セス

第四條　上屋內使用料ハ別紙使用料金表ヨリ徵收ス但シ表中記載ナキモノハ表中類似ノモノヲ標準トシテ徵收ス

使用料ハ時間ノ長短ヲ問ハス二日以內使用スルモノハ別表ニ依リ徵收シ其三日以上使用スルトキハ一日每ニ其前日使用料ノ倍額ヲ徵收ス但シ壹錢ニ滿タザル場合ノ端數ハ壹錢ヲ徵收シ集計上壹錢未滿ノ端數ハ之ヲ切捨テ錢位ニ止ム

第五條　公益事業ニ對シテハ特ニ市長ニ於テ使用料ヲ減免スルコトアルヘシ

第六條　使用期間ハ上屋內ヲ除ク區域ニ於テハ三十日上屋內ニ於テハ五日限リトス

同一物件ニ對シテハ名義人ノ如何ニ拘ラズ前項ノ期間ヲ經過スルヲ得ス

第一項ノ期間ヲ經過シタルモノハ無斷使用ト看做ス

第七條　第二條ノ手續ヲ爲サス使用シタルモノヲ追認ノ場合ハ使用ノ日ニ遡リ第三條第四條ニ規定セル料金ヲ徵收シ前條第三項ニ該ルモノヽ使用料ハ上屋內ハ最高額ノ二倍上屋內ヲ除ク區域ニ於テハ一坪ニ付一日金四拾五錢ヲ徵收ス

第八條　使用料金ハ使用中ニ納付スルコトヲ要ス

第九條　許可期日內ト雖モ市長ニ於テ必要ヲ認ムルトキハ許可ノ一部又ハ全部ヲ取消シ物品ノ搬出ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　上屋內ニ於テハ他ノ物ニ危害ヲ與フモノ及木材等ノ大嵩ノモノハ使用ヲ許サス

第十一條　許可ヲ得スシテ荷物ヲ集積スルモノ及前條ニ違背シタルモノハ金五圓以下ノ過料ヲ科シ尙將來荷揚場ノ使用ヲ許可セサルコトアルヘシ

第十二條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

第十三條　本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年條例第二十四號荷役場上屋使用料條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

丸亀市共同荷揚場使用料條例施行細則

（大正十四年三月十七日
丸亀市告示第十七號）

第一條　本則ニ於テ條例ト稱スルハ共同荷揚場使用料條例ヲ云フ

第二條　荷揚場ニ吏員ヲ置キ荷揚場使用ニ關スル一般事務ノ處理及取締ヲナサシム

第三條　條例第二條ニヨリ使用ノ許可ヲ受ケントスルモノハ使用前左記事項ヲ記載シタル願書ヲ市長ニ提出スベシ

一、使用者ノ本籍地及現住所氏名

一、使用期間

一、使用ノ目的並ニ品名形狀數量

一、使用區域及坪數

一、其他必要ト認ムル事項

引續ヲ以テ許可ヲ受クルモノハ前項ノ例ニヨリ使用追認ヲ求メントスルモノハ其理由ヲ申出ツベシ

第四條　使用者ハ吏員ノ指揮ヲ受ケ物品ノ錯雜混亂危險ノ虞ナキ樣充分注意シ必ス使用者ノ

氏名ヲ標示スベシ

第五條　荷揚場ニ於テハ物品ニ加工シ又ハ荷造等ヲナスコトヲ得ス

第六條　荷揚場ハ塵埃汚物腐敗物惡臭ヲ發スルモノ其他衛生上有害ナリト認ムルモノノ搬出入ニ使用スルコトヲ得ス

第七條　荷揚場使用ニ就テハ許可區域ヲ嚴守シ若シ許可區域外ニ亘リタルトキハ無斷使用者ト看做シ之ヲ處分スルモノトス

第八條　荷揚場使用中荷揚場及岩壁其他ノ建設物ニ對シ破損ヲ生セシメタルトキハ使用者ハ吏員ノ指揮ヲ受ケ遲滯ナク復舊工事ヲ爲スベシ

使用者ニ於テ復舊工事ヲナササル場合ハ市ハ適宜之ヲ行ヒ其費用ノ全部使ヲ用者ニ負擔セシム

第九條　荷揚場ニ於ケル物品ニ付テハ市ハ全ク之カ保管ノ責ニ任セス

附則

第十條　本細則ハ條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

記念館使用料條例

（大正八年一月三十日條例第二十九號）

第一條　記念館ハ御聖蹟ヲ除ク外本條例所定ノ使用料ヲ徵シ使用セシムルモノトス但シ使用ノ目的公益ニ係ルモノト認ムルトキハ市長ニ於テ其料金ヲ減免スルコトアルベシ

第二條　記念館ヲ使用セントスルモノハ其ノ目的日時及建物ノ名稱ヲ記載シタル書面ヲ當廳ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第三條　使用料ハ左ノ區分ニヨリ使用許可ノ際之ヲ徵收ス

區分	金額
全部使用料	一晝夜 七圓
廣間使用料	一晝夜 五圓
一晝夜ハ	五圓

第四條　前條ノ使用期間一晝夜ト稱スルハ午前八時ヨリ午後十二時迄トシ一晝ト稱スルハ午前八時ヨリ午後六時迄トシ一夜ト稱スルハ午後六時ヨリ午後十二時迄トシ各其範圍內ノ使用ニ屬スル場合ト雖モ金額ヲ徵收ス但シ他ノ使用者ト重復セサル場合ニ於テハ晝間ノ使用

者及夜間ノ使用者ノ使用期間ヲ二時間以內ニ限リ市長ニ於テ延期又ハ短縮スルコトヲ得

第五條　徵收シタル使用料ハ使用ノ廢止又ハ取消シアリタル場合ニ於テモ之ヲ還付セサルモノトス

第六條　電燈料ハ使用者ニ於テ使用料ノ外別途支辨スルモノトス

附　則

第七條　本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

丸龜市公設市場使用料條例

（大正九年九月九日條例第三十七號）

第一條　市ノ經營スル公設市場ヲ使用セントスル者ハ市長ノ許可ヲ受クベシ

但シ定期使用ハ滿一ケ年ヲ以テ一期間トス

第二條　市場使用ノ許可ヲ受ケタル者ト雖モ其使用上不都合ノ行爲アリタルトキハ使用ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

第三條　市場ヲ使用スル者ハ本條例ノ定ムル處ニヨリ使用料ヲ納ムベシ

第四條　使用料ハ左ニ定ムル所ニ依リ徵收ス

一、定期使用料　一區　一ケ月金貳圓

二、臨時使用料　車積入　一車ニ付金五錢

擔入　一荷ニ付金二錢

第五條　使用料ハ納テ前納トシ定期使用ニアリテハ毎月一日ニ其月分ヲ臨時使用ニアリテハ其都度之ヲ納ムベシ

但シ定期使用ニシテ其使用カ月ノ中途ニ始マリタルトキハ日割計算ヲ以テ其初日ニ之ヲ納ムヘシ

第六條　定期使用ノ許可ヲ受ケタル後三日以內ニ營業ヲ開始セザルトキハ許可ノ効力ヲ失フモノトス

自己ノ便宜又ハ使用許可取消命令ニ依リ使用ヲ廢止シタル場合ト雖モ既納ノ料金ヲ還付セズ

附　則

第七條　本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

道路占用規程

（大正十年五月二十二日告示第二十三號）
（改正）昭和三年一月十七日告示第三號

第一條　市道ノ占用ハ所轄警察署ト協議ノ上交通上支障ナシト認メタルモノニ限リ之ヲ許可ス道路ノ附屬物ヲ占用セントスル場合亦同シ

第二條　市道ヲ占用セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ市長ニ提出許可ヲ受クヘシ

一、占用スヘキ位置
二、占用ノ目的
三、占用スヘキ坪數及間數
四、占用スヘキ期間
五、占用料金額
六、出願者ノ住所氏名
七、出願者市外ニ居住スルトキハ市內居住者ヲ管理人トシ其者ノ住所氏名

第三條　前條ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、占用スヘキ位置ヲ表示スル見取圖

二、工作物ヲ施スモノハ其圖面及仕樣書設計書

三、法令ニ依リ他ノ官公署ノ許可ヲ要スヘキモノニ在リテハ其許可書

四、占用ノ隣地ニ害アリト認メラルヘキ者ニ在リテハ其ノ地主ノ同意書

五、占用セントスル者ニシテ管理人ヲ置キタルトキハ其ノ者ノ承認書但シ願書ニ連署ヲ爲シテ承認書ニ代ユルコトヲ得

第四條　占用ノ許可ヲ受ケタル者第二條第二號第三條第三號ノ事項ヲ變更セントスル者ハ願書ニ其圖面仕樣書設計書ヲ添ヘ市長ニ出願許可ヲ受クベシ

第五條　占用權ハ他人ニ讓渡シ又ハ他ノ權利義務ノ目的物トナスコトヲ得ス

但家督相續又ハ遺產相續ニ依リ前占有者ノ權利ヲ繼承シタルモノハ其相續ヲナシタルコトヲ證スル書類ヲ添ヘ屆出ヘシ

第六條　占用個所ハ許可ノ期間內ト雖モ公益上必要アルトキ又ハ占用者カ故意怠慢ニ依リ其箇所ヲ毀損滅失シタルトキ若クハ其虞アルトキ或ハ他人ヲ害シ又ハ害セントスル行爲アルトキハ市長ハ之カ許可ノ全部又ハ幾部ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於ケル占用者ノ損失ニ付テハ市長ハ之カ責ニ任セス

第七條　占用許可期間內ニ於テ其占用ノ要ナキニ至リタル者ハ市長ニ返付ヲ屆出ツヘシ其住所氏名ニ變更アリタルトキ亦同シ

第八條　道路占用ヲ許可シタルトキハ占用料ヲ徵收ス占用料ノ額ハ左記範圍內ニ於テ之ヲ定ム

(一)　電柱

本柱、支柱、控線、各一本ニ付年額一圓以內

(二)　地下構造物

埋設管(瓦斯管、水管ノ類)延長一間年額拾錢以內

但シ瓦斯埋管ノ內各戶ノ引込ニ對シテハ占用料ヲ徵收セス

(三)　軌道、堅道、跨道橋ノ類

延長一間ニ付年額五拾錢以內

（四）標柱ノ類（廣告看板等）

横幅三尺迄ノモノ一ケ所年額貳圓以内

但シ三尺以内ヲ增ス毎ニ壹圓以内ヲ增ス

（五）板圍及足場

巾三尺未滿ノモノ一間月額貳拾錢以内

巾三尺以上ノモノ一坪月額四拾錢以内

（六）前各號以外ノ目的ノ爲メ占用スルモノハ

一坪月額五拾錢以内

第九條　左ノ場合ニ於テハ占用料ヲ免除スルコトヲ得

一、宗教、教育、衛生、慈善、其他一般公衆ノ利益ヲ目的トスルモノ

二、單ニ家屋ノ出入ニ供スルモノ又ハ何時ニテモ取除キ得ヘキ日覆ノ類

三、祭日、祭典、年ノ市、誓文拂等ノ出店及街路ノ裝飾

第十條　占用料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ算定徵收ス

一、年額ニ依ルモノハ甲年四月一日ヨリ乙年三月三十一日迄ヲ一期トシ全額ヲ甲年四月中ニ又五月以後ニ占用シタルモノハ月割ヲ以テ之ヲ定メ物件占用前ニ隨時之ヲ徵收ス

二、月割ニ依ルモノハ許可ノ月ヨリ滿期ノ月迄ニ於ケル月數ニ依ル但シ一ケ月未滿ノモノハ一ケ月ト看做シ物件占用前ニ徵收ス

三、中途占用ヲ停止シ若ハ廢止スルコトアルモ既定ノ占用料ハ之ヲ減額セス

第十一條　既納ノ占用料ハ過誤ヲ除ク外之ヲ還付セス

但シ市ノ必要ニ因リテ占用ノ許可ヲ取消シタル場合ハ此限リニアラス

第十二條　坪數ニシテ單ニ一坪未滿ノモノハ一坪ト看做ス

附　則

第十三條　本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

但シ施行ノ際占用中ノ者ニ關シテハ占用許可期間中ニ限リ仍從前ノ定メニ依ルモ電柱ニ對シテハ昭和三年四月以降建設ニ係ルモノ及占用許可中ノモノト雖モ昭和三年度ヨリ占用料ヲ徵收ス

丸龜市特別稅電氣扇稅條例

（大正十一年七月三日 條例四第十二號）

第一條　電氣扇稅ハ本市內ニ於テ電氣扇ヲ使用スル者ニ對シ之ヲ賦課ス

但シ電氣扇ノ貸付ヲ受ケ一ケ年中十日間以內臨時使用ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　本稅ハ電氣扇一個ニ付金參圓以內トシ每年度市會ニ於テ其課額ヲ定ム

第三條　第一條ノ該當者ハ每年其ノ使用個數ヲ使用開始ノ日ヨリ十日以內ニ市長ニ屆出ツヘシ

第四條　前條ノ屆出ヲ怠リ注意ヲ受クルモ尙其ノ手續ヲ爲サヽル者又ハ不正ノ手段ヲ以テ脫稅ヲ圖リタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處ス

第五條　本條例施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本條例ハ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス

特別稅電氣扇稅條例施行細則

（大正十一年七月三日告示第四十九號）

第一條　特別稅電氣扇稅ハ八月一日現在ニ依リ賦課シ其納期ハ八月十日ヨリ八月二十日限リトス八月二日以後納稅義務ノ發生シタル者ハ隨時市長ニ於テ期日ヲ定メ賦課徵收ス

第二條　條例第三條ノ屆出ハ第一號樣式ニ限リ申告スヘシ

第三條　前條ノ申告ヲナシタル者ハ第二號樣式ノ證票ヲ受ケ戶外ノ見易キ箇所ニ掲クベシ

第一號樣式

年度電氣扇使用申告

一、使用ノ場所　丸龜市　町　番地

二、使用開始年月日　年　月　日

三、使用ノ個數　個

右申告候也

年　月　日

住所　丸龜市　町　番地

申告者　何　某　印

市長　殿

第九類　使用料、手數料、市稅及賦課徵收

第二號樣式

三寸五分

一寸五分

何年度

電氣扇何台使用屆濟

印

延滯金徵收規程

（大正十五年八月二十五日告示第六十九號）

市稅滯納ニ依リ徵收スル延滯金左ノ通リ定ム

滯納稅額十圓ニ付一日四厘

附則

本規程ハ大正十五年七月一日以後ノ滯納者ニ適用ス

丸龜市水道給水條例

（大正十五年八月十日條例第五四號）

第一章　通則

第一條　給水ハ総テ計量法ニ依ル但消火栓ハ此限リニアラス

第二條　給水ハ左ノ三種栓ニ依ル

一、専用栓　一戸又ハ一ケ所ノ専用ニ供スルモノ

二、共用栓　公設又ハ私設トシ一戸以上ノ共用ニ供スルモノ

三、消火栓　公設又ハ私設トシ消火用ニ供スルモノ

第三條　給水ハ濫用又ハ他ニ分與シ若クハ販賣スルコトヲ得ス

第四條　専用給水ヲ分チテ左ノ三種トス

第一種　第二種第三種以外ノモノ

第二種　汽車船舶原動力、工事其他一時ノ使用ニ供モルモノ

第三種　噴水、瀧泉池ノ類ニ供スルモノ

第五條　公設共用給水ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

一、世帶主又ハ其家族若クハ同居者ニ所得稅納付者ナキモノ

二、特ニ市長ノ承認ヲ受ケタル者

前項各號ノ一ニ該當セサル者ト雖モ一時專用給水ニ依ルコト能ハサルトキハ區域及時期ヲ限リ特ニ使用セシムルコトアルヘシ

公設共用栓ノ位置及區域ハ市長之ヲ定ム

第六條　私設共用栓給水ハ前條第一項ノ該當者ニシテ設備費ヲ負擔シ共同使用スル者ニ供給ス

第七條　公設消火栓ハ市費ヲ以テ設置ス

私設消火栓ハ火災又ハ演習ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

私設消火栓ハ本市ニ於テ常ニ封緘ヲ附ス

演習ノ爲メ私設消火栓ヲ使用セントスルトキハ豫メ本市ノ承認ヲ受クヘシ

私設消火栓ハ火災ノ場合又ハ公益上ノ使用ニ對シ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　船舶給水ノ販賣ヲ爲サントスル者又ハ專用船舶給水所ヲ設置セントスル者ハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　公設共用栓及船舶給水栓竝ニ之ニ對スル量水器ハ市費ヲ以テ設置ス

第十條　量水器ハ給水裝置ヲ請求スル者ニ於テ本市ノ承認スル型式ノモノヲ提供スヘシ但シ量水器ハ本市ノモノヲ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得

第十一條　給水裝置トハ配水管ヨリ分岐シタル給水管及之ニ附屬スル給水用具ヲ云フ

第十二條　給水裝置請求者ハ家屋所有者又ハ土地所有者ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　給水裝置所有者又ハ使用者變更シタルトキハ双方連署ヲ以テ三日以內ニ其旨屆出ヘシ但シ連署ヲ得ルコト能ハサルトキハ繼承者ニ於テ其理由ヲ具シ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ市內ニ住居セル管理人一名ヲ選定シ連署ノ上直ニ屆出ヘシ其變更シタル時モ亦同シ

一、給水裝置所有者市內ニ現住セサルトキ

二、公設又ハ私設共用栓ヨリ給水ヲ爲スヘキ家屋二戶以上ノトキ管理人不適當ナリト認メタル時ハ更ニ選定ヲ命スルコトアルヘシ管理人ハ本條例ニ規定シタル義務ニ付給水裝

置所有者ト連帶ノ責ニ任スルモノトス

第十五條　給水裝置所有者、使用者及管理人家族雇人若クハ同居者ノ行爲ニ對シ自己ノ指揮ニ非サルノ故ヲ以テ其責ヲ免ルヽコト能ハス

第十六條　給水裝置ハ給水栓ノ外水道係員ニアラサレハ之ニ觸レ又ハ開閉スルコトヲ得ス

第十七條　給水使用者ノ門戸ニハ本市所定ノ標識ヲ掲ク

第十八條　給水ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ制限シ又ハ停止スルコトアルヘシ

一、變災又ハ其他避クヘカラサル事故アルトキ

二、工事若クハ配給上已ヲ得サルトキ

三、公益上必要アリト認ムルトキ

給水制限若クハ停止ヨリ生スル損害ニ對シテハ本市ハ其責ニ任セス

第十九條　給水裝置所有者ニシテ流末裝置ノ施工ヲ爲サントスルトキハ豫メ設計書圖面ヲ提出シ市長ノ許可ヲ受クヘシ流末裝置竣功シタルトキハ直ニ屆出ヲナシ檢査ヲ受クヘシ

第二十條　市長ハ給水使用上ニ關シ檢査ノ爲メ午前八時ヨリ午后五時迄ノ間ニ於テ係員ヲシテ隨時水道使用者ノ居宅ニ立入ラシムルコトアルヘシ

前項係員ニハ證票ヲ携帶セシム

第二十一條　給水ヲ開始、中止又ハ廢止セントスル場合ハ其前日迄ニ之ヲ請求スヘシ

第二十二條　本市貸付ノ量水器ハ請求者管理人又ハ使用者保管ノ責ニ任シ若シ滅失毀損シタル時ハ之カ損害ヲ辨償セシム但シ自然破損又ハ變災ニ因ルモノハ此限ニアラス

第二十三條　給水裝置所有者ハ量水器ノ試驗ヲ請求スルコトヲ得

前項檢査ノ結果百分ノ五以上ノ差違アルトキハ前回點檢以後ノ水量ヲ訂正シ若シ百分ノ五未滿ノ差違アルトキハ規定檢査手數料ヲ徵收シ使用水量ヲ更訂セス

第二十四條　共用給水ニハ使用戸數ニ應シ區域ヲ定メ鑑札及鍵ヲ交附ス鑑札及鍵ハ之ヲ分離スルコトナク使用者汲水ノ際必ス之ヲ携帶スヘキモノトス

第二十五條　鑑札及鍵ヲ毀損シ若クハ亡失シタルトキハ直チニ屆出テ之カ再交附ヲ受クヘシ

鑑札鍵不用ニ歸シ又ハ發見シタルトキハ直チニ返納スヘシ

第二十六條　左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ屆出ツルヲ要ス

一、給水裝置ノ破損其他異狀ヲ生シタルトキ

二、給水種別ヲ變更スヘキ事由ヲ生シタルトキ

三、給水使用者給水裝置者カ相續讓渡又ハ氏名改稱等ニヨリ名義ヲ變更シタル時又ハ其住所ヲ變更シタルトキ

四、管理人ノ變更又ハ資格ヲ失ヒタルトキ若クハ其住所ヲ變更シタルトキ

五、火災ノ爲メ私設消火栓ヲ變更シタルトキ

六、給水裝置ヲ燒失シタルトキ

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ給水ヲ中止ス

一、給水使用者其管理ヲ拋棄シタルトキ

二、給水裝置ノ損傷其他ノ事由ニ依リ必要ヲ認メタルトキ

第二章　工事及工費

第二十八條　給水裝置ノ新設、增設、變更、修繕又ハ撤去ハ之ヲ市長ニ請求スルモノトス

第二十九條　給水裝置新設工事ハ公道ニ屬スル部分ハ市ノ負擔トシテ其他ノ部分ハ給水裝置請求者ノ費用ヲ以テ本市之ヲ施行ス

第三十條　他人ノ給水管ヨリ支管ヲ分岐セントスル者ハ本管所有者ノ承認ヲ得ルヲ要ス本管所有者ニシテ給水ノ廢止又ハ撤去ヲ爲サントスルトキハ躍メ支管引用者ニ通知スヘシ

此場合支管引用者何等ノ手續ヲナササル時ハ給水ヲ廢止シタルモノト看做ス

第三十一條　給水裝置ニ自己ノ材料ヲ使用セントスルトキハ檢査ノ上承認ヲ與ヘタル者ニ限リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

本條ノ場合ニ於テハ規定ノ檢査手數料ヲ納付スヘシ

第三十二條　給水裝置ノ位置ハ請求者ニ於テ之ヲ指定スルモノトス但シ其位置不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

前項ノ指定ニ付テハ第三者ノ異議アルモ本市ハ其責ニ任セス

給水工事施工ノ結果工作物復舊ヲ要スルトキハ請求者ノ負擔ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第三十三條　道路變更其他ノ事由ニヨリ水道本支管ノ移轉ヲ必要トスルトキハ之ニ伴フ各戸給水管ノ改造工事ハ所有者ノ請求ヲ待タス本市ニ於テ之ヲ施工ス

前項ノ費用ハ水道本支管移轉ノ必要ヲ生セシメタル者ノ負擔トス

第三十四條　給水裝置ノ新設、變更、修繕及撤去等ヲ要スルモノハ工費ノ一部トシテ金一圓ヲ添ヘ請求スヘシ

前項ノ工費ハ工事設計後ニ於テハ其請求ノ取消ヲ爲スモ之ヲ還付セス

第三十五條　給水工事ノ請求ヲ爲シタル者ハ指定期限內ニ工費ヲ納付スヘシ

給水工事ハ工費ヲ納付セシ後ニ非サレハ施工セス但官公署官公立學校其他市長ニ於テ工費前納ノ必要ナシト認メタル者ハ此限ニアラス

工事上特別ノ設計ヲ要スルトキハ市長ノ定メタル手數料ヲ納付スヘシ

第三十六條　新タニ給水裝置ヲ爲シタル後一ケ月以內ニ故障アルコトヲ發見シタルトキハ使用者ノ故意又ハ過失ニヨルモノノ外本市ノ費用ヲ以テ之ヲ修理ス

第三十七條　配水管ヲ布設セサル個所ニ於テハ給水設備ノ請求アルモ之ヲ拒ムコトアルヘシ

第三十八條　本市ノ量水器ヲ讓渡スル場合ハ市長ノ定ムル代價ヲ即納セシム

第三十九條　新設給水裝置ノ工事費及本市ヨリ讓渡スル量水器ノ代價ハ請求者ノ希望ニヨリ市長ノ承認ヲ受ケ拾ケ月以內ニ分納スルコトヲ得此場合ニ於テハ市長ノ認ムル保證人ノ連署シタル分納證書ヲ提出スヘシ

此場合ニ於ケル給水裝置ハ第一回分納金ノ納付ヲ待テ施工ス

分納額ニ對シテハ工費及量水器代價ノ總額ニ對シ市長ノ定ムル利息ヲ加算ス

第四十條　分納金ノ納付ヲ怠ルトキハ給水裝置ヲ撤去スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ既納工費ハ之ヲ還付セス但既納工費カ材料價格ノ缺損竝ニ撤去費用ノ合計額ニ過不足アルトキハ還付又ハ追徵ス

第四十一條　工費分納中ノ給水裝置及量水器ハ完納ニ至ル迄所有權ハ之ヲ本市ニ保留シ其保留期間中ハ請求者ヲシテ保管ノ責ニ任セシムルモノトス

分納金完納前給水裝置及量水器ノ不用ニ歸シタルトキ若クハ異動ヲ生シタルトキ又ハ本條例ニ違背シタルトキハ其未納額ハ即時完納セシム

第四十二條　工費ハ工事完成ノ上精算シ過不足ヲ生シタルトキハ之ヲ還付又ハ追徵ス

追徵金ヲ指定期間內ニ納付セサルトキハ其給水裝置ヲ撤去スルコトアルヘシ猶之カ爲本市

ニ生シタル損害額ハ之ヲ賠償セシム

第四十三條　給水裝置ハ左ノ場合ニ於テハ其請求ヲ取消シタルモノト認メ第三十四條第二項ヲ適用ス

一、指定期限內ニ工費ヲ納付セス又ハ必要書類ヲ提出セサルトキ

二、請求ノ日ヨリ十五日以內ニ給水設備ノ位置ヲ指定セサルトキ

三、工事施工ニ際シ請求者ノ責ニ歸スヘキ事由ノ爲メ着手スルコト能ハサルトキ

第三章　料金及徵收

第四十四條　給水請求者ハ本規定ノ給水料及手數料ヲ納付スルモノトス

第四十五條　給水料ハ使用水量ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ徵收ス

但シ一立方米未滿ハ整月ノ水量ニ算入ス

一、專用給水

第一種　給水管「十三ミリメートル」以下ノモノ

一戶一ヶ月十立方米迄　金一圓二十錢

以上一立方米ヲ增ス每ニ金十二錢ヲ加フ

給水管「十六ミリメートル」以上ノモノ

一戶一ヶ月十五立方米迄　金一圓八十錢

以上一立方米ヲ增ス每ニ金十二錢ヲ加フ

給水管「二十ミリメートル」以上ノモノ

一戶一ヶ月二十立方米迄　金二圓四十錢

以上一立方米ヲ增ス每ニ金十二錢ヲ加フ

給水管「二十五ミリメートル」以上ノモノ

一戶一ヶ月三十立方米迄　金三圓六十錢

以上一立方米ヲ增ス每ニ金十二錢ヲ加フ

湯屋

一戶一ヶ月三十立方米迄　金六圓

以上一立方米ヲ增ス每ニ金六錢ヲ加フ

第九條　使用料、手數料、市稅及賦課徵收

製氷業及醸造業者ニシテ一戸一ヶ月ノ使用水量百立方米以上ノモノ

一戸一ヶ月百立方米以上
　全量ニ對シ一立方米ニ付　金十　錢

一戸一ヶ月二百五十立方米以上
　全量ニ對シ一立方米ニ付　金八　錢

一戸一ヶ月五百立方米以上
　全量ニ對シ一立方米ニ付　金六　錢

一戸一ヶ月一千立方米以上
　全量ニ對シ一立方米ニ付　金三　錢

第二種　一戸又ハ一ヶ所一ヶ月使用水量
十立方米迄　金一圓五十錢
以上一立方米ヲ增ス毎ニ金十五錢ヲ加フ

第三種　一戸又ハ一ヶ所一ヶ月ノ水量
十立方米迄　金二圓二十錢
以上一立方米ヲ增ス毎ニ金二十二錢ヲ加フ

二、公設及私設共用給水
一戸一ヶ月十立方米迄　金六十錢
以上一立方米ヲ增ス毎ニ金六錢ヲ加フ

共用栓ノ使用水量ハ使用家屋各戸均等ニ使用シタルモノト看做ス

第五條第二項ニ該當スル一時使用者ハ公設及私設共用給水料金ノ二倍ヲ徵收ス

第四十六條　私設消火栓ヲ演習ニ使用スル場合ノ給水料ハ一日ノ使用時間二十分毎ニ貳圓ヲ徵收ス但シ二十分未滿ハ二十分トシテ計算ス

第四十七條　專用給水ニシテ一戸內ニ種別ヲ異ニスル給水裝置アルトキハ各別ニ量水器ヲ設置シ其給水料ハ各種別ニヨリ之ヲ徵收ス

第四十八條　量水器ノ故障其他事故ノ爲メ使用水量明確ナラサル時ハ前月分ト同額トシ若クハ市長ノ認定ニヨリ之ヲ定ム

第四十九條　給水量ハ毎月量水器ヲ點檢シ其使用水量ニ依リ査定シ之ヲ徴收ス但給水ノ開始ハ月ノ十六日以後ナルトキ又ハ其ノ中止廢止カ月ノ十五日以前ナルトキハ第四十五條ニ規定スル一ケ月最低限度消費量及料金ハ各其ノ二分ノ一トス

製氷業及醸造業者ニシテ前項開始中止廢止ニ該當スル場合ニ於ケル給水料ノ算定ニ付テハ第四十五條第一項ニ規定スル特別料金ニ關スル給水量、百立方米、二百五十立方米、五百立方米及一千立方米ハ各其ノ二分ノ一トシテ之ヲ計算ス

第五十條　給水料ハ給水ノ制限及停止ノ場合ト雖モ之ヲ徴收ス但第十八條ノ場合七日以上ニ渉ルトキハ市長ニ於テ適宜之ヲ減免スルコトヲ得

第五十一條　慈善事業又ハ貧困ノ爲メ其他特別ノ事由アルトキハ市長ニ於テ特ニ其給水料ヲ減免スルコトアルヘシ

第五十二條　本市貸付ノ量水器ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ使用料ヲ徴收ス

口徑十三「ミリメートル」以下　一個一ケ月ニ付　金二十錢

口徑二十「ミリクートル」以下　一個一ケ月ニ付　金三十錢

口徑二十五「ミリメートル」以下　一個一ケ月ニ付　金五十錢

口徑三十八「ミリメートル」以下　一個一ケ月ニ付　金一圓

口徑五十「ミリメートル」以下　一個一ケ月ニ付　金二圓

口徑七十五「ミリメートル」以下　一個一ケ月ニ付　金三圓

口徑百「ミリメートル」以下　一個一ケ月ニ付　金四圓

量水器ノ使用料ハ給水料ト同時ニ之ヲ徴收ス

第五十三條　量水器ノ試驗手數料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス

口徑十三「ミリメートル」以下　一個ニ付　金五十錢

口徑三十八「ミリメートル」以下　一個ニ付　金一圓

口徑五十「ミリメートル」以下　一個ニ付　金二圓

口徑七十五「ミリメートル」以下　一個ニ付　金三圓

口徑百「ミリメートル」以下　一個ニ付　金四圓

第五十四條　鑑札及鍵ヲ再交付スル場合ハ手數料トシテ各一個ニ付金二十錢ヲ徴收ス

第五十五條　第三十一條ノ材料檢査手數料ハ左ノ通リ之ヲ徵收ス

一、水栓類　一個ニ付　金五十錢

二、鉛管及鐵管四吋以下十米毎ニ　金七十錢

但シ十米ニ滿タサルモ十米トス

三、消火栓　一個ニ付　金二圓五十錢

四、制水辨四吋以下　一個ニ付　金三圓

五、流末裝置　一工事ニ付　金五圓以下

前項ニ據リ難キモノハ其實費トス

第四章　違反處分

第五十六條　左記各號ノ一ニ該當シタルトキハ第一號ニ付テハ完納ニ至ル迄第二號以下ニ付テハ相當期間給水ヲ停止ス

一、給水料工費其他本條例ノ規定ニヨリ納付スヘキ金額ヲ期限內ニ納付セサルトキ

二、本條例第三條ニ違反シタルトキ

三、量水器ノ作用ヲ妨害シ其他給水量ノ逋脫ヲ圖リタルトキ

四、鑑札及鍵ヲ貸與シ又ハ不正ノ鑑札及鍵ヲ使用シタルトキ

五、恣ニ給水裝置ノ異動改造又ハ增設ヲ爲シタルトキ

六、正當ノ理由ナクシテ係員ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ妨害セシトキ

七、給水ノ停止中濫リニ止木栓制水辨ヲ開栓シタルトキ

八、私設消火栓ノ封緘ヲ浸リニ破毀シタルトキ

九、管理人ノ選定ヲ爲ササルトキ

十、本條例ニ定メタル屆出ノ手續ヲ怠リ又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタルトキ

十一、前各號ノ外本條例ニ違背シタルトキ

前項第二號乃至第八號ニ該當スル場合其違反行爲ニヨル水量ハ市長之ヲ査定シ所定料金ヲ徵收ス

第五號ノ場合ハ本市之ヲ撤去シ其費用ヲ徵收ス

第五十七條　二戸以上間一ノ給水管ヨリ給水ヲ受クル使用者中本條例違反ノ爲メ他ノ使用者

カ同時ニ停止セラルルモ之ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十八條　第五十六條第一項第二號乃至第八號ニ該當スル者ハ第五十六條ノ處分ヲ爲シタル上尙五圓以下ノ過料ニ處シ且損害ニ對シテハ之ヲ賠償セシム但シ情狀酌量スヘキモノハ其處分ヲ輕減又ハ免除スルコトアルヘシ

附　則

第五十九條　本條例施行ニ關スル細則ハ市長之ヲ定ム

第六十條　本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

丸龜市水道給水條例施行細則

（大正十五年八月十一日告示第六十七號）

第一條　本則ニ於テ條例ト稱スルハ丸龜市水道給水條例ヲ謂フ

第二條　給水裝置ノ種別ハ市長之ヲ定ム

第三條　條例第八條ニヨリ給水ヲ船舶ノ爲メ販賣セントスル者ハ販賣價格及其算定ノ基礎標準ヲ記載シタル願書ヲ提出スヘシ

第四條　船舶給水栓ニシテ給水料金ヲ月定メニナシ得サルモノハ月定メト同一率ヲ以テ一立方米ニテ販賣スルコトヲ得

第五條　共用栓ノ鑑札及鍵ハ管理人ヨリ之ヲ請求スヘシ

第六條　天災事變ノ爲メ又ハ衛生上必要アルトキハ私設共用栓ヲ臨時他ニ使用セシムルコトアルモ其所有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條　條例第三十九條ノ保證人ハ本市內ニ居住シ且市內ニ土地又ハ家屋ヲ所有スル者ニ限ル

保證人死亡シ又ハ前項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第八條　條例第二十一條ニ依ル請求ハ專用栓ニ於テハ給水裝置所有者又ハ管理人承諾ノ上共用栓ニ於テハ管理人ヨリ請求スヘシ

第九條　共用栓使用者ノ戶數ハ一世帶ヲ以テ一戶トス

第十條　私設共用給水ハ居住者五戶以上共用使用ノ爲メ給水設備ヲ要求シタル場合ハ其ノ土地又ハ家屋ノ所有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

私設共用栓ノ區域內ニ轉住シタルモノニ對シ該給水裝置所有者ハ正當ノ理由ナクシテ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　演習ノ爲メ永認ヲ得テ私設消火栓ヲ使用セントスルトキハ水道吏員ノ立會ヲ受クルヲ要ス

第十二條　條例第十四條第二號ノ管理人ハ該共用給水區域內ニ居住シ獨立ノ生計ヲ營ムモノニ限ル

第十三條　給水裝置所有者所在不明ノ爲メ其管理ヲ爲サヽル場合ニ於テ該裝置ヲ管理セントスル者ハ其旨市長ニ屆出ツヘシ

前項管理人ノ請求ニ應シ給水シタル場合ニ於テ給水裝置所有者其ノ他ニ損害ヲ及ボスコトアルモ本市其責ニ任セス

第十四條　本市水道用量水器ハ左ノ型式ノモノトス

東京金門式又ハ大阪旭式ニシテ乾式翼車型トス

第十五條　量水器ニ異狀アリト認メタルトキハ速ニ本市ニ申出ツヘシ

第十六條　量水器ノ試驗及給水裝置ノ應急修繕ニ關シ使用者ヨリ請求アリタルトキハ當該給水裝置所有者ヨリ請水アリタルモノト看做ス

第十七條　量水器ヲ點檢シタルトキハ其都度點檢簿ニ使用水量ヲ揭記シ若シ異狀其他ノ事故ニ依リ示點明瞭ナラスト認メタルトキハ其事由ヲ併記スルモノトス

第十八條　量水器ハ清潔ニ之ヲ保管シ且ツ裝置ノ場所ニハ點檢又ハ修理ニ支障ヲ生スヘキ物件ヲ堆積シ若ハ工作物等ヲ設クルコトヲ得ス若シ工作物其他ノ爲メ障害アリト認メタルトキハ其位置ヲ變更シ該工費ハ保管者ノ負擔トス

第十九條　給水請求者ハ量水器ノ點檢及試驗ニ立會セサルノ故ヲ以テ其結果ニ異議ヲ唱フル

コトヲ得ス

第二十條　條例ニ於テ一ケ月ト稱スルハ量水器ニ依リ使用量ヲ計量スルモノニアリテハ量水器點檢ノ時ヨリ次ノ點檢ノ時ニ至ル期間ヲ謂ヒ其ノ他ニアリテハ曆月ヲ謂フ

但シ期間ハ三十日未滿ニテハ點檢セサルモノトス

第二十一條　量水器ノ貸與ヲ受ケタルトキハ保管證書ヲ提出スヘシ保管者變更シタルトキ亦同シ

第二十二條　給水ニ關スル工事ハ日出ヨリ日沒迄ノ間ニ之ヲ施行ス

但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限リニアラス

第二十三條　條例第三十九條第四項ノ利子ハ工費豫算額及量水器代價ヲ標準トシ未納金額百圓ニ付日歩二錢七厘トス分納ニ係ル給水工費ニシテ第四十二條ノ場合ハ第二回以後ノ納期ニ於テ之ヲ增減ス

第二十四條　給水裝置ノ種別ヲ變更シタル月ノ給水料又ハ量水器ノ口徑ヲ變更シタル月ノ使用料ハ其ノ料率ノ重キニ從フ給水裝置ヲ料率ノ異ナル二種以上ノ用途ニ混用シタルトキハ給水料ハ重キニ從ヒ之ヲ徵收ス

第二十五條　水道ノ使用中止又ハ廢止ノ屆出ヲナキトキハ量水器ニ使用水量ヲ表示セサル場合ト雖モ給水料金ハ之ヲ徵收ス違背處分ニ依リ給水ヲ停止シタルトキ亦同シ

第二十六條　給水ニ關スル各種請求、願、屆ハ第一號乃至第二十四號書式ニ依ル

一、給水裝置新設請求書　第一號書式
一、專用給水開始請求書　第二號書式
一、公私共用栓給水請求書　第三號書式
一、支管引用承諾書　第四號書式
一、私設消火栓新設請求書　第五號書式
一、給水裝置位置變更、改造、增設、修繕、徹去請求書　第六號書式
一、專用栓給水中止廢止請求書　第七號書式
一、共用栓給水中止廢止請求書　第八號書式
一、私設消火栓演習使用願　第九號書式

一、私設消火栓使用屆　第十號書式
一、名義變更屆　第十一號書式
一、住所變更屆　第十二號書式
一、專用栓異動屆　第十三號書式
一、公設私設共用栓異動屆　第十四號書式
一、給水裝置新設工事月賦證書　第十五號書式
一、一時公設共用栓使用申請書　第十六號書式
一、共用栓管理人選定屆　第十七號書式
一、給水裝置管理者屆　第十八號書式
一、公私共用栓管理人變更屆　第十九號書式
一、給水裝置保管屆　第二十號書式
一、私設共用栓笠札破再交付請求書　第二十一號書式
一、量水器試驗願　第二十二號書式

一、流末裝置承認申請書　第二十三號書式ノ一
一、給水裝置材料檢査願　第二十三號書式ノ二
一、量水器保管證書　第二十四號書式
一、給水種類變更請求書　第二十五號書式

附則

本則ハ條例施行ノ日ヨリ施行ス

第一號書式

受附第　號　年　月　日

給水裝置新設請求書

給水ノ種類	專用	給水裝置場所	丸亀市　町　番地
	共用		
用途		給水使用者	員　住所　世帶主職氏名
工事費	即納		町　番地
	分納		
計量器	提供		
	讓受、借受		

計量器費	卽納	
	分納	

右丸龜市水道給水條例ニ依リ給水裝置施工相成度金壹圓相添ヘ請求候也

年　月　日

丸龜市　町　番
請求者　地主
家主　何　某㊞

丸龜市長殿

第二號書式　専用給水開始請求書

給水栓番號	第　號	水栓設置場所	丸龜市　町　番
用途		人員	
使用者職氏名			

右　月　日ヨリ水道使用開始致度候間給水相成度候也

年　月　日

丸龜市　町　番
請求者　氏　名　印

丸龜市　町　番
給水裝置所有者　氏　名　印

丸龜市長殿

第三號書式　公設 私設 共用栓給水請求書

一、給水栓番號　第　號
一、設置場所　丸龜市　町　番
一、戸數　戸（左記調書ノ通リ）

右何月何日ヨリ水道使用 開始 廢止 致度請求候也

年　月　日

丸龜市　町　番
管理人　氏　名　印

給水裝置所有者　氏　名　印

丸龜市長殿

右鑑札及鍵　個受領候也

年　月　日

管理人　氏　　名　印

調書

職業	居住	鑑札	町名番地	職業	居住	鑑札	町名番地
人員	番	號	使用者氏名	人員	番	號	使用者氏名

第四號書式　　支管引用承諾屆

一、本　管　丸龜市　町　番

所在　栓第　號

一、支管引用場所　丸龜市　町　番

右支管引用ノ儀本管所有者ニ於テ承諾致候ニ付屆出候也

年　月　日

丸龜市　町　番

本管所有者　氏　　名　印

支管ノ爲メニ要スル本管加工費ハ支管引用者負擔可致候也

年　月　日

丸龜市　町　番

支管引用者　氏　　名　印

丸龜市長殿

第五號書式　　私設消火栓新設請求書

一、設置場所　丸龜市　町　番

一、個　數　屋內　單口　何個

屋外　雙口　何個

一、附屬品

右丸龜市水道給水條例ニ依リ設置致シ度候間工事施工相成度工費壹部金壹圓相添ヘ請求候

也

年　月　日

丸亀市　町　番
土地
家屋　所有者　氏　名印

丸亀市長殿

第六號書式　給水設置位置變更、改造
増設、修繕、徹去請求書

一、水栓所在　丸亀市　町　番
一、種別番號　何栓第　號
右位置變更、改造
増設、修繕、徹去致度候間工事施行相成度工費一部金壹圓相添へ請求候也

年　月　日

丸亀市　町　番
給水裝置所有者　氏　名印

丸亀市長殿

第七號書式　専用栓給水中止請求書

一、水栓所在　丸亀市　町　番
一、種別番號　何々栓第　號
一、事由
右　月　日ヨリ水道使用中止
廢止致度候間諸求候也

年　月　日

丸亀市　町　番
請求者　氏　名印
給水裝置
所有者　氏　名印

丸亀市長殿

第八號書式　共用栓給水中止
廢止請求書

一、水栓所在　丸亀市　町　番
一、種別番號　何々栓第　號